

# 家政学科研究科

# 食物栄養学専攻

科目名	栄養生理学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	甲斐 達男		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 栄養と健康・疾病の関係については、遺伝子レベルの研究手法が導入されてから、関与する栄養成分の分子レベルの機能解析と相まって、現在、目覚ましく進展している。それらの研究成果を踏まえて、遺伝子診断によって個々人の遺伝的特質に見合った栄養制御を行い、発症リスクの低減や健康保持を狙う方向に向かっていく。これまで、個々人の遺伝的特質と疾病の関係については臨床遺伝学の分野として取り扱われてきたが、これに栄養学の知見と研究手法が合流して臨床栄養遺伝学と言える研究領域が芽吹こうとしているのである。本講義では、この新たな潮流に関する最新の国内外の学術論文を読み、発表や討論を行う能力を修得する。			
[ 授業概要 ] 「疾病」、「健康」、「栄養」、「遺伝子」をキーワードに、最新の研究論文を読んで、その研究の意義、研究手法、研究成果について相互に発表を行い、討論する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 1. 本科目を履修する前に、「栄養生理学特論」を履修し、健康と疾病における遺伝子の関わりを十分に理解しておく必要がある。 2. 栄養学と病理学の全般、食品の機能性成分の生体内における機能、遺伝子の構造と機能について、十分に復習した上で本講義に臨むことが求められる。担当する論文の内容を把握し、実験方法や参考文献、関連文献をよく調べてから授業に臨んで頂きたい。			
[ 授業計画 ] 1. 文献検索の仕方、入手方法、論文の構成に関する解説 2. 学術論文の紹介・解説手法の解説 3. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論 4. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論 5. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論 6. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論 7. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論 8. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論 9. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論 10. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論 11. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論 12. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論 13. まとめ			
[ 成績評価方法 ] 発表の内容、討論への参加状況、取り組み態度などを総合して評価する。			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書 (ISBN) ] なし			
[ 参考書 (ISBN) ] 必要に応じて、授業中に紹介する。			

科目名	栄養生理学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	甲斐 達男		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]          栄養と健康・疾病の関係については、遺伝子レベルの研究手法が導入されてから、関与する栄養成分の分子レベルの機能解析と相まって、現在、目覚ましく進展している。それらの研究成果を踏まえて、遺伝子診断によって個々人の遺伝的特質に見合った栄養制御を行い、発症リスクの低減や健康保持を狙う方向に向かっていく。これまで、個々人の遺伝的特質と疾病の関係については臨床遺伝学の分野として取り扱われてきたが、これに栄養学の知見と研究手法が合流して臨床栄養遺伝学と言える研究領域が芽吹こうとしているのである。本講義では、この新たな潮流に関する最新の国内外の学術論文を読み、発表や討論を行う能力を修得する。</p> <p>[ 授業概要 ]          「疾病」、「健康」、「栄養」、「遺伝子」をキーワードに、最新の研究論文を読んで、その研究の意義、研究手法、研究成果について相互に発表を行い、討論する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]          1. 本科目を履修する前に、「栄養生理学特論」を履修し、健康と疾病における遺伝子の関わりを十分に理解しておく必要がある。          2. 栄養学と病理学の全般、食品の機能性成分の生体内における機能、遺伝子の構造と機能について、十分に復習した上で本講義に臨むことが求められる。担当する論文の内容を把握し、実験方法や参考文献、関連文献をよく調べてから授業に臨んで頂きたい。</p> <p>[ 授業計画 ]          1. 文献検索の仕方、入手方法、論文の構成に関する解説          2. 学術論文の紹介・解説手法の解説          3. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論          4. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論          5. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論          6. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論          7. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論          8. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論          9. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論          10. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論          11. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論          12. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論          13. まとめ</p> <p>[ 成績評価方法 ]          発表の内容、討論への参加状況、取り組み態度などを総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]          なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]          必要に応じて、授業中に紹介する。</p>			

科目名	栄養生理学特論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	甲斐 達男		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] <p>栄養と健康・疾病の関係については、遺伝子レベルの研究手法が導入されてから、関与する栄養成分の分子レベルの機能解析と相まって、現在、目覚ましく進展している。それらの研究成果を踏まえて、遺伝子診断によって個々人の遺伝的特質に見合った栄養制御を行い、発症リスクの低減や健康保持を狙う方向に向かっている。これまで、個々人の遺伝的特質と疾病の関係については臨床遺伝学の分野として取り扱われてきたが、これに栄養学の知見と研究手法が合流して臨床栄養遺伝学と言える研究領域が芽吹こうとしているのである。</p> <p>本講義では、この新たな潮流に関する最新の国内外の学術論文を読み、発表や討論を行う能力を修得するために、遺伝子そのもの、および、疾病との関係性についての基礎知識を修得する。</p>			
[ 授業概要 ] <p>遺伝子の構造と機能を学習し、健康と疾病に関わる遺伝子の役割を理解する。          栄養生理学演習abを受講する前に本科目を履修し、健康と疾病における遺伝子の関わりを十分に理解しておく必要がある。</p>			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] <p>生化学、基礎栄養学、臨床栄養学、病理学の復習が必要          反転授業を行うので、教科書の講義予定箇所を十分に読み砕いて授業に臨んで頂きたい。</p>			
[ 授業計画 ] <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要と授業形式(反転授業)の解説</li> <li>2. ヒトゲノムのなりたち</li> <li>3. ヒトゲノムの多様性</li> <li>4. 遺伝学の初歩</li> <li>5. 疾患遺伝子の探し方</li> <li>6. さまざまな疾患の遺伝子</li> <li>7. がん遺伝子変異</li> <li>8. RNAとタンパク質の大規模解析</li> <li>9. エピジェネティクスと遺伝子発現</li> <li>10. 個人に合わせた医療</li> <li>11. 遺伝子検査と遺伝子治療</li> <li>12. 遺伝子工学</li> <li>13. ゲノム創薬と予防医学</li> <li>14. 試験</li> </ol>			
[ 成績評価方法 ] <p>試験(100%)</p>			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p>			
[ 教科書(ISBN) ] <p>よくわかるゲノム医学 改訂第2版(羊土社) 著者名:服部成介、水島-菅野純子 著、菅野純夫 監修 出版社:羊土社 (13-978-4758120661)</p>			
[ 参考書(ISBN) ] <p>必要に応じて、授業中に紹介する。</p>			

科目名	栄養化学演習a	前期	2 単位
サブタイトル	栄養学の研究とその研究方法を学ぶ		
担当者	狩野 百合子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]          栄養化学の実験・研究の進め方を理解し、実践できるようになる。また、最近の英語研究論文を読み、国内外の研究者によって行われているさまざまな研究に触れることにより、各自の研究に反映させることを目指す。</p> <p>[ 授業概要 ]          栄養化学は「栄養」という生理現象を化学的および生化学的手法を用いて研究する学問分野である。栄養化学に関する英語研究論文を読むために、栄養に関連のある英語科学研究論文に共通した専門用語および特殊な表現に慣れることが必要である。そこで、幾つかの基本的な栄養に関連する英文を紹介し、解説する。その後、栄養化学に関係のある最新の英語研究論文を読み、実験・研究の進め方について討論する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]          前回の授業を復習し、理解を深めて、次の授業の準備をすること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養、消化および吸収</li> <li>2. 栄養、消化および吸収</li> <li>3. 栄養、消化および吸収</li> <li>4. 栄養シグナル</li> <li>5. 細胞内におけるタンパク質の輸送と選別</li> <li>6. 細胞内におけるタンパク質の輸送と選別</li> <li>7. 糖タンパク質</li> <li>8. 白色脂肪組織と褐色脂肪組織</li> <li>9. 筋肉と細胞骨格</li> <li>10. 筋肉と細胞骨格</li> <li>11. 生体異物の代謝</li> <li>12. 非栄養素(ポリフェノール)</li> <li>13. まとめ(討論)</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]          レポート50% 出席状況50%</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          ハーパー生化学 著者名:上代淑人 出版社:丸善 (4-621-07344-3)</p>			

科目名	栄養化学演習b	後期	2 単位
サブタイトル	栄養学の研究とその研究方法を学ぶ		
担当者	狩野 百合子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]          栄養化学の実験・研究の進め方を理解し、実践できるようになる。また、最近の英語研究論文を読み、国内外の研究者によって行われているさまざまな研究に触れることにより、各自の研究に反映させることを目指す。</p> <p>[ 授業概要 ]          栄養化学は「栄養」という生理現象を化学的および生化学的手法を用いて研究する学問分野である。栄養化学に関する英語研究論文を読むために、栄養に関連のある英語科学研究論文に共通した専門用語および特殊な表現に慣れることが必要である。そこで、幾つかの基本的な栄養に関連する英文を紹介し、解説する。その後、栄養化学に関係のある最新の英語研究論文を読み、実験・研究の進め方について討論する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]          前回の授業を復習し、理解を深めて、次の授業の準備をすること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養、消化および吸収</li> <li>2. 栄養、消化および吸収</li> <li>3. 栄養、消化および吸収</li> <li>4. 栄養シグナル</li> <li>5. 細胞内におけるタンパク質の輸送と選別</li> <li>6. 細胞内におけるタンパク質の輸送と選別</li> <li>7. 糖タンパク質</li> <li>8. 白色脂肪組織と褐色脂肪組織</li> <li>9. 筋肉と細胞骨格</li> <li>10. 筋肉と細胞骨格</li> <li>11. 生体異物の代謝</li> <li>12. 非栄養素(ポリフェノール)</li> <li>13. まとめ(討論)</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]          レポート50% 出席状況50%</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          ハーパー生化学 著者名:上代淑人 出版社:丸善 (4-621-07344-3)</p>			

科目名	家政学研究特別講義a	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	ガンガ 伸子、狩野 百合子、大森 正子、置村 康彦、木村 万里子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  食物栄養学と生活造形学をはじめ、家政学に関する最新の研究成果に触れて、知識を深めること。</p> <p>[ 授業概要 ]  食物栄養学と生活造形学に関わる種々の分野のトピックスを選び、本学・本研究科担当教員および学外の特別講師が分担して講義を行う。この分野は学術的内容と実務的内容、あるいは具体的なモノの製作とそのモノの利用など、複合した状況の中に成立している科学である。各講師の独創的な活動を通して得られた種々の知見を講述する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  種々な事項に興味を持ち、前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>第15回目の博士論文進捗状況発表会と第7回目の修士論文中間発表会は対面で行う。</p> <p>前期に7～8回程度の特別講義(2時間)を予定している。  実施日については別途通知する。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  提出レポート等により評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	家政学研究特別講義b	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	ガンガ 伸子、中西 正恵、竹中 優、山根 千弘、栗原 伸公、砂本 文彦		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  食物栄養学と生活造形学をはじめ、家政学に関する最新の研究成果に触れて、知識を深めること。</p> <p>[ 授業概要 ]  食物栄養学と生活造形学に関わる種々の分野のトピックスを選び、本学・本研究科担当教員および学外の特別講師が分担して講義を行う。この分野は学術的内容と実務的内容、あるいは具体的なモノの製作とそのモノの利用など、複合した状況の中に成立している科学である。各講師の独創的な活動を通して得られた種々の知見を講述する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  種々な事項に興味を持ち、前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]  7～8回程度の特別講義(2時間)を予定している。  実施日については別途通知する。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  提出レポート等により評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	食品化学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	安藤 清一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 食品科学分野の研究論文を読み、食品機能に関わる研究の現状や課題を把握する。発表や討論を通じて、論文のまとめ方や発表の技術を習得する。</p> <p>[ 授業概要 ] 食品の機能性に関して、日本語で発表された最近の研究論文を講読し、研究方法や研究成果の活用について相互に発表を行い、討論する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 担当する論文の内容を把握し、実験方法や参考文献についてもよく調べておく。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.文献検索の方法と論文の構成①</li> <li>2.文献検索の方法と論文の構成②</li> <li>3.論文の書き方と参考文献①</li> <li>4.論文の書き方と参考文献②</li> <li>5.食品機能に関する論文の輪読、発表、討論①</li> <li>6.食品機能に関する論文の輪読、発表、討論②</li> <li>7.食品機能に関する論文の輪読、発表、討論③</li> <li>8.食品機能に関する論文の輪読、発表、討論④</li> <li>9.食品機能に関する論文の輪読、発表、討論⑤</li> <li>10.食品機能に関する論文の輪読、発表、討論⑥</li> <li>11.食品機能に関する論文の輪読、発表、討論⑦</li> <li>12.食品機能に関する論文の輪読、発表、討論⑧</li> <li>13.まとめ</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 演習に取り組む姿勢、発表内容、討論への参加状況などを総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	食品化学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	安藤 清一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  国際誌に掲載された食品科学分野の研究論文を読み、食品機能に関わる研究の現状や課題を把握する。発表や討論を通じて、論文のまとめ方や発表の技術を習得する。</p> <p>[ 授業概要 ]  食品の機能性に関して、英語で発表された最近の研究論文を講読し、研究方法や研究成果の活用について相互に発表を行い、討論する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  担当する論文の内容を把握し、実験方法や参考文献についてもよく調べておく。</p> <p>[ 授業計画 ]  1.英語論文の検索と構成、読み方①  2.英語論文の検索と構成、読み方②  3.食品機能に関する英語論文の輪読、発表、討論①  4.食品機能に関する英語論文の輪読、発表、討論②  5.食品機能に関する英語論文の輪読、発表、討論③  6.食品機能に関する英語論文の輪読、発表、討論④  7.食品機能に関する英語論文の輪読、発表、討論⑤  8.食品機能に関する英語論文の輪読、発表、討論⑥  9.食品機能に関する英語論文の輪読、発表、討論⑦  10.食品機能に関する英語論文の輪読、発表、討論⑧  11.食品機能に関する英語論文の輪読、発表、討論⑨  12.食品機能に関する英語論文の輪読、発表、討論⑩  13.まとめ</p> <p>[ 成績評価方法 ]  演習に取り組む姿勢、発表内容、討論への参加状況などを総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	食品加工学特論	前期	2 単位
サブタイトル	膨化食品における加工原理とその研究対象		
担当者	宮本 有香		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 膨化食品(パン、ケーキ等)の食品成分の化学的、物理的変化など、加工原理について理解を深め、学術論文に記載された研究内容を理解できる。			
[ 授業概要 ] 膨化食品の原材料を解説し、それぞれの膨化食品について膨化のメカニズムを化学的、物理的に理解する。また、膨化食品に関する研究論文を探索し、論文内容をパワーポイントにまとめて発表する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学部で習得した食品加工学に関する内容を復習しておく。 講義ごとに講義内容の要点をまとめたレポートを作成、提出する。			
[ 授業計画 ] 1. 授業の進め方、概要に関する説明 2. 材料「小麦粉」について 3. 材料「砂糖、卵、乳製品、油脂製品、膨化材」について 4. 「パン焼成～発酵パン」について 5. 「パン焼成～無発酵パン」について 6. 「スポンジケーキ(共立て)焼成」について 7. 「スポンジケーキ(別立て)焼成」について 8. 「パウンドケーキ焼成」について 9. 「シュークリーム焼成」について 10. 「パイ生地焼成」について 11. 膨化食品に関する学術論文紹介 12. 膨化食品に関する論文探索方法および計画立案 13. 膨化食品に関する学術論文紹介(プレゼンテーション)			
[ 成績評価方法 ] 前回講義内容の要点レポートの提出および振り返りによって、学びへの積極性と理解度を判断する。 文献紹介発表および学術論文の理解力を評価する。			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ] なし			
[ 参考書(ISBN) ] お菓子「こつ」の科学 著者名:河田昌子 出版社:柴田書店 (978-4-388-25119-3) パン「こつ」の科学 著者名:吉野精一 出版社:柴田書店 (978-4-388-25102-5) 小麦の科学 著者名:長尾精一 出版社:朝倉書店 (4-254-43038-8)			

科目名	食品加工学演習a	前期	2 単位
サブタイトル	製パン実験		
担当者	宮本 有香		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  食品加工学特論で学んだ内容を元に、様々な条件にて製パンを行い、評価することで、小麦をはじめ、製パンに必要な材料の加工特性を知る。</p> <p>[ 授業概要 ]  食品加工学特論で学んだ小麦の科学を元に、小麦粉を用いた加工食品のなかでも、特に、製パンに焦点を絞り、様々な条件で実際に生地を製造、焼成を行い、その評価を行う。また、得られたデータをまとめ、最後にプレゼン発表を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  各授業の内容を、前期の資料などを用いて見直しておく。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 製パン試験方法について</li> <li>2. ファリノグラフの基本的な測定方法について</li> <li>3. ミキソグラフの基本的な測定方法について</li> <li>4. アミログラフの基本的な測定方法について</li> <li>5. ベーキングテストの条件設定①</li> <li>6. ベーキングテスト①</li> <li>7. データ解析①</li> <li>8. ベーキングテストの条件設定②</li> <li>9. ベーキングテスト②</li> <li>10. データ解析②</li> <li>11. ベーキングテストの条件設定③</li> <li>12. ベーキングテスト③</li> <li>13. データ解析③</li> <li>14. プレゼンテーションによる発表</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]  研究計画報告、最終結果レポートおよびプレゼンテーションによる発表</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  小麦の科学 著者名:長尾精一 出版社:朝倉書店 (4-254-43038-8)</p>			

科目名	食品加工学演習b	後期	2 単位
サブタイトル	小麦粉の加工特性を知る		
担当者	宮本 有香		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  食品加工学特論で学んだ内容を元に、様々な小麦加工品を調製、評価することで、小麦粉の加工特性について知識を深める。</p> <p>[ 授業概要 ]  食品加工学特論で学んだ小麦の科学を元に、様々な小麦粉を用いた加工食品、なかでもパン以外の小麦加工食品(シュー生地・カスタードクリーム・ホワイトソース・パンケーキ・スポンジケーキ・ケーキドーナツ・パイ生地・麺・まんとう生地など各自で対象を設定する)について様々な条件で実際に調製し、その評価を行う。  また、得られたデータをまとめ、最後にプレゼン発表を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  各授業の内容を、前期の資料などを用いて見直しておく。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(演習の進め方について)</li> <li>2. 実験対象および内容の検討、文献の収集</li> <li>3. 実験計画(対象選択・実験方法・検討項目・評価方法の検討)</li> <li>4. 実験①</li> <li>5. 実験②</li> <li>6. データ解析および考察</li> <li>7. 実験計画(対象選択・実験方法・検討項目・評価方法の検討)</li> <li>8. 実験①</li> <li>9. 実験②</li> <li>10. データ解析および考察</li> <li>11. 実験計画(対象選択・実験方法・検討項目・評価方法の検討)</li> <li>12. 実験①</li> <li>13. データ解析および考察</li> <li>14. プレゼンテーションによる発表</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]  研究計画報告、最終結果レポートおよびプレゼンテーションによる発表</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  小麦の科学 著者名:長尾精一 出版社:朝倉書店 (4-254-43038-8)</p>			

科目名	食品化学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	安藤 清一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 食品に含まれるさまざまな機能性成分の構造や特性に関する基礎知識を整理し、機能性成分と健康との関わりを理解を深めることを目指す。</p> <p>[ 授業概要 ] 植物性食品、動物性食品、油脂類、嗜好飲料等に含まれる機能性成分を解説し、これら機能性成分が各種生体調節機能に及ぼす影響について講義する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学部時代の「食べ物と健康」分野に関連する学習内容を復習し、十分に理解していること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食品のもつ機能性</li> <li>2. 植物性食品に含まれる機能性成分の化学</li> <li>3. 動物性食品に含まれる機能性成分の化学</li> <li>4. 油脂類に含まれる機能性成分の化学</li> <li>5. おなかの調子を整える機能性成分の作用機序</li> <li>6. 血糖値の上昇を抑制する機能性成分の作用機序</li> <li>7. 血液中の脂質成分の上昇を抑制する機能性成分の作用機序</li> <li>8. 貧血を予防する機能性成分の作用機序</li> <li>9. 血圧上昇を抑制する機能性成分の作用機序</li> <li>10. 骨代謝を改善する機能性成分の作用機序</li> <li>11. 食物アレルギーを予防する機能性成分の作用機序</li> <li>12. 生体の酸化を防止する機能性成分の作用機序</li> <li>13. 食品機能性のまとめ</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 特論に取り組む姿勢、レポート課題の内容を総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 適宜資料配付</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	食品微生物学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	甲斐 達男		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 最新の国内外の学術論文を読み、食品微生物に関わる研究の現状や課題、今後の動向を把握する。発表や討論を通じて各人が自分自身の研究について報告する機会をもち、今後の研究の方向性を考えることができるようにする。			
[ 授業概要 ] 食品微生物に関して最新の研究論文を読んで、その研究の意義、研究手法、研究成果について相互に発表を行い、討論する。			
今期のテーマは「発酵微生物」としてパン酵母を取り上げるが、授業では、パン酵母の栄養摂取と、ストレス応答の司令塔であるTORとの関係性を追及した学術論文を抄読する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 担当する論文の内容を把握し、実験方法や参考文献、関連文献をよく調べて、発表に備えること。			
[ 授業計画 ]			
1. 文献検索の仕方、入手方法、論文の構成に関する解説			
2. 学術論文の紹介・解説手法の解説			
3. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
4. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
5. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
6. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
7. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
8. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
9. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
10. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
11. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
12. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
13. まとめ			
[ 成績評価方法 ] 発表の内容、討論への参加状況、取り組み態度などを総合して評価する。			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ] なし			
[ 参考書(ISBN) ] 必要に応じて、授業中に紹介する。 出版社:ない			

科目名	食品微生物学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	甲斐 達男		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 最新の国内外の学術論文を読み、食品微生物に関わる研究の現状や課題、今後の動向を把握する。発表や討論を通じて各人が自分自身の研究について報告する機会をもち、今後の研究の方向性を考えることができるようにする。			
[ 授業概要 ] 食品微生物に関して最新の研究論文を読んで、その研究の意義、研究手法、研究成果について相互に発表を行い、討論する。			
今期のテーマは「発酵微生物」としてパン酵母を取り上げるが、授業では、パン酵母の栄養摂取と、ストレス応答の司令塔であるTORとの関係性を追及した学術論文を抄読する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 担当する論文の内容を把握し、実験方法や参考文献、関連文献をよく調べて、発表に備えること。			
[ 授業計画 ]			
1. 文献検索の仕方、入手方法、論文の構成に関する解説			
2. 学術論文の紹介・解説手法の解説			
3. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
4. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
5. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
6. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
7. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
8. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
9. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
10. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
11. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
12. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論			
13. まとめ			
[ 成績評価方法 ] 発表の内容、討論への参加状況、取り組み態度などを総合して評価する。			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ] なし			
[ 参考書(ISBN) ] 必要に応じて、授業中に紹介する。 出版社:ない			

科目名	食品衛生学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	栗原 伸公		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 食品衛生学を中心とした食と健康に関する国内外の最新の情報を、英文・和文に関わらず医学雑誌等から読み取り、それについて考察する力を獲得する。また、そのようにして得た情報を、他者にわかりやすく伝える力をも獲得することを目標とする。			
[ 授業概要 ] 食品衛生学を中心とした食と健康に関する国内外の最新の英語論文を輪読する。学生が順番に興味のある論文を選び、あらかじめ作成したレジュメをもとにその内容を提示する。さらに他の学生にもわかりやすく伝えるために、その論文の基盤となる知識についても詳細に調べ、解説を行う。教員は適宜その内容を補足・修正し、学生を本質的な理解へと導く。 留意事項: 発表論文は1週間前までに提示すること。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 食品衛生学に関する大学レベルの知識を復習しておく。医学英語について、専門用語をできるだけ把握する。あらかじめ、自分の興味のある分野の医学論文(英語)を検索し、10~20程度を入手して抄録を読んでおく。			
[ 授業計画 ] 1. 初回説明 2. 論文抄読1 3. 論文抄読2 4. 論文抄読3 5. 論文抄読4 6. 論文抄読5 7. 論文抄読6 8. 論文抄読7 9. 論文抄読8 10. 論文抄読9 11. 論文抄読10 12. 論文抄読11 13. まとめ			
[ 成績評価方法 ] 発表内容・授業への取り組み方			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ] なし			
[ 参考書(ISBN) ] なし			

科目名	食品衛生学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	栗原 伸公		
[実務経験のある教員による授業]			
<p>[ 到達目標 ]  食品衛生学を中心とした食と健康に関する国内外の最新の情報を、英文・和文に関わらず医学雑誌等から読み取り、それについて考察する力を獲得する。また、そのようにして得た情報を、他者にわかりやすく伝える力をも獲得することを目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ]  食品衛生学を中心とした食と健康に関する国内外の最新の英語論文を輪読する。学生が順番に興味のある論文を選び、あらかじめ作成したレジュメをもとにその内容を提示する。さらに他の学生にもわかりやすく伝えるために、その論文の基盤となる知識についても詳細に調べ、解説を行う。教員は適宜その内容を補足・修正し、学生を本質的な理解へと導く。  留意事項: 発表論文は1週間前までに提示すること。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  食品衛生学に関する大学レベルの知識を復習しておく。医学英語について、専門用語をできるだけ把握する。あらかじめ、自分の興味のある分野の医学論文(英語)を検索し、10~20程度を入手して抄録を読んでおく。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. 初回説明  2. 論文抄読1  3. 論文抄読2  4. 論文抄読3  5. 論文抄読4  6. 論文抄読5  7. 論文抄読6  8. 論文抄読7  9. 論文抄読8  10. 論文抄読9  11. 論文抄読10  12. 論文抄読11  13. まとめ</p> <p>[ 成績評価方法 ]  発表内容(80%)・授業への取り組み方(20%)</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	食品衛生学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	栗原 伸公		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 食品衛生学の研究動向を知るとともに、研究の基本的な考え方や手法を学ぶ。</p> <p>[ 授業概要 ] 食品衛生学に関する最新の文献を読み、討論する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 授業前には、あらかじめ指定した食品衛生に関する英語論文を通読しておくこと。 授業後には、毎回授業で扱った論文のまとめのレポートを作成すること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 論文検討</li> <li>3. 論文検討</li> <li>4. 論文検討</li> <li>5. 論文検討</li> <li>6. 論文検討</li> <li>7. 論文検討</li> <li>8. 論文検討</li> <li>9. 論文検討</li> <li>10. 論文検討</li> <li>11. 論文検討</li> <li>12. 論文検討</li> <li>13. まとめ</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 発表(60%)、レポート(40%)</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業の際に指定</p>			

科目名	食品分析学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	木村 万里子		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 食品の安全性や品質を適切に評価するためには、食品に含まれる多様な化学成分についての正しい知識と、各成分に応じた正しい取り扱い方法や評価方法を理解しておく必要がある。ここでは、豆類由来の赤血球凝集素(レクチン)の調製や活性測定を通して、生理活性タンパク質を適切に取り扱い、評価することができる能力を養う。			
[ 授業概要 ] 豆類に含まれる赤血球凝集素(レクチン)の分離・精製を通して、生理活性タンパク質の取り扱いの基本操作(抽出、硫酸分画、脱塩、カラムクロマトグラフィー)を学ぶ。また、授業の中で、微量タンパク質の定量法、赤血球凝集活性の測定方法についても学習する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 「食べ物と健康」分野の学習について復習しておくこと。各回、予習復習合わせて2時間程度です。			
[ 授業計画 ] 1. 食品に含まれる様々な生理活性成分について① 2. 食品に含まれる様々な生理活性成分について② 3. 食品に含まれる様々な生理活性成分について③ 4. 豆類に含まれる赤血球凝集素の分離・精製① 5. 豆類に含まれる赤血球凝集素の分離・精製② 6. 豆類に含まれる赤血球凝集素の分離・精製③ 7. 豆類に含まれる赤血球凝集素の分離・精製④ 8. 豆類に含まれる赤血球凝集素の分離・精製⑤ 9. 豆類に含まれる赤血球凝集素の分離・精製⑥ 10. 豆類に含まれる赤血球凝集素の分離・精製⑦ 11. 赤血球凝集素の活性測定 12. 実験結果の発表とレポート作成 13. まとめ			
[ 成績評価方法 ] 受講態度(20%)、レポート課題(80%)			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ] なし(プリント配布)			
[ 参考書(ISBN) ] 適宜指示する。			

科目名	食品分析学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	木村 万里子		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 食品の安全性や品質を適切に評価するためには、食品に含まれる多様な化学成分についての正しい知識と、各成分に応じた正しい取り扱い方法や定量方法を理解しておく必要がある。ここでは、嗜好飲料類中のポリフェノール類のHPLCによる分析を通して、精密機器を適切に取り扱い、微量成分を正確に定量することができる能力を養う。			
[ 授業概要 ] 嗜好飲料類に含まれるポリフェノール類のHPLCによる分析を行う。具体的には、ポリフェノールの種類に応じたカラム・溶媒の選択方法、溶媒の調製法、HPLCの正しい取り扱い方など、微量分析法の基本操作を学ぶ。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 「食べ物と健康」分野の学習について復習しておくこと。各回、予習復習合わせて4時間です。			
[ 授業計画 ] 1. 食品に含まれる機能性成分について① 2. 食品に含まれる機能性成分について② 3. 食品に含まれる機能性成分について③ 4. 食品に含まれる機能性成分について④ 5. まとめ(1-4回の授業内容) 6. 嗜好飲料類に含まれるポリフェノール類の定量① 7. 嗜好飲料類に含まれるポリフェノール類の定量② 8. 嗜好飲料類に含まれるポリフェノール類の定量③ 9. 嗜好飲料類に含まれるポリフェノール類の定量④ 10. 嗜好飲料類に含まれるポリフェノール類の定量⑤ 11. 嗜好飲料類に含まれるポリフェノール類の定量⑥ 12. まとめ(6-11回の授業内容) 13. 全体のまとめとレポート作成			
[ 成績評価方法 ] 受講態度(20%)、レポート課題(80%)			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ] なし(プリント配布)			
[ 参考書(ISBN) ] 適宜指示する。			

科目名	食品分析学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	木村 万里子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 食品に含まれる様々な栄養素や機能性成分の分子レベルでの解析方法とその原理を学ぶことにより、食に対する科学的思考力や創造性を養うことを目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ] 食品の品質や機能を適切に評価するには、その食品に含まれる化学成分を量・質的に把握する必要がある。本講義では、食品に含まれる各種成分について、それらの定性・定量分析の基礎と応用について解説する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 食品学総論、食品学各論、食品加工学など「食べ物と健康」分野の学習について復習しておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度です。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. HPLC理論の紹介① HPLC装置の構成</li> <li>3. HPLC理論の紹介②検出器の種類と原理</li> <li>4. HPLC理論の紹介③カラムレジソ</li> <li>5. まとめ(2-4回の授業内容)</li> <li>6. 食品成分分析の事例紹介①</li> <li>7. 食品成分分析の事例紹介②</li> <li>8. 食品成分分析の事例紹介③</li> <li>9. まとめ(6-8回の授業内容)</li> <li>10. 食品成分の分離・定量に用いられる機器分析法(学外特別講師)</li> <li>11. 食品成分の構造・機能解析に用いられる機器分析法(学外特別講師)</li> <li>12. まとめ(10, 11回の授業内容)</li> <li>13. 全体のまとめとレポート作成</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 授業中の試験(20%)、レポート課題(80%)</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし(プリント配布) 著者名:なし 出版社:なし (なし)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜指示する。</p>			

科目名	生化学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	田村 奈緒子		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 現在の生化学は様々な生命現象を分子レベルで理解し、個々の過程を統合して全体像を解明する流れにある。さらに遺伝学、分子生物学、細胞生物学などの総合的理解の上に成り立っており、それらの分野の基本的知識と考え方が不可欠である。当演習では当該分野および周辺分野の基礎的な知識および実験技術を習得する。			
[ 授業概要 ] 専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果のとりまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。受講者は主体的に討議に参加することが求められる。以下の内容と関連する題材について講義発表し、討論を行う。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 活性酸素とはいつどこで発生し、細胞に対してどのような影響を及ぼすものなのかを広く調べておき、その細胞側の対応を学ぶ準備とする。			
[ 授業計画 ] 1. SODとNOおよびグルタチオン代謝のクロストークによるレドックス制御 2. レドックス制御機構ーチオレドキシンスーパーファミリーの視点から 3. 遺伝子発現と制御その1 グルタチオンの役割 4. 遺伝子発現と制御その2 グルタチオンの合成 5. 遺伝子発現と制御その3 GSHによるレドックス制御 6. NADPHオキシダーゼとROS生成機構 7. ヘムオキシゲナーゼと酸化ストレス 8. 酸素分圧による遺伝子発現制御機構 9. NF- $\kappa$ Bと酸化ストレスシグナル 10. Nrf2による酸化ストレス応答 11. 酸化的ストレスによるタンパク質キナーゼの活性化 12. チオレドキシニンによるキナーゼの活性制御機構 13. 酸化的ストレスによる細胞内シグナル伝達におけるタンパク質チロシンキナーゼの機能			
[ 成績評価方法 ] 発表討論の評価、レポート			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書 (ISBN) ] 「酸化ストレス・レドックスの生化学」日本生化学会編集 著者名: 谷口直之、淀井淳司編 出版社: 共立出版 (978-4320055568)			
[ 参考書 (ISBN) ] なし			

科目名	生化学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	田村 奈緒子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 現在の生化学は様々な生命現象を分子レベルで理解し、個々の過程を統合して全体像を解明する流れにある。さらに遺伝学、分子生物学、細胞生物学などの総合的理解の上に成り立っており、それらの分野の基本的知識と考え方が不可欠である。当演習では当該分野および周辺分野の基礎的な知識および実験技術を習得する。また、実験を自らデザイン、実施し、成果を取りまとめる能力を育てる。</p> <p>[ 授業概要 ] 専門書や最新論文の読解および批判的論評、研究デザインに関する議論、自身の研究結果のとりまとめと発表、他研究者とのさまざまな研究連絡、プレゼンテーションの訓練などが含まれる。受講者は主体的に討議に参加することが求められる。以下の内容と関連する題材について講義発表し、討論を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 人体の細胞内外での酸化反応がどのような場合に起こりうるか、また結果としてどのような生成物となりうるかを考え、疾病と酸化ストレス、活性酸素とのかかわりを学習する準備とする。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アポトーシスと老化における酸化ストレス</li> <li>2. 動脈硬化と酸化ストレス</li> <li>3. 脳虚血と酸化ストレス</li> <li>4. 循環動態と酸化ストレスー活性酸素の生理機能と病理機能</li> <li>5. 炎症と酸化ストレスー感染と炎症におけるフリーラジカルの産生</li> <li>6. がんの転移と酸化ストレス</li> <li>7. 神経疾患と酸化ストレス</li> <li>8. 酸化ストレスの関与が考えられる疾患</li> <li>9. 糖尿病と酸化ストレス</li> <li>10. 酸化ストレスとDNA損傷</li> <li>11. 発がん和酸化ストレス</li> <li>12. 酸化ストレスによるDNA傷害と分子疫学</li> <li>13. 酸化ストレスと消化器疾患</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 発表討論の評価、レポート</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 「酸化ストレス・レドックスの生化学」日本生化学会編集 著者名: 谷口直之、淀井淳司編 出版社: 共立出版 (978-4320055568)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	生化学演習 II a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	小倉 嘉夫		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 本演習では脂質の生化学に関わる基本的な知識を習得するために最近の研究論文や総説を読み、広範の脂質化学および代謝の知識の整理と本質的な理解を目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ] 最近の脂質研究は分子生物学や分析化学の進歩に伴い目覚ましい発展を遂げている。脂質化学・代謝の理解は健康維持、いろいろな疾病のメカニズムや治療、機能性食品の開発などに役立てられる。国内外の脂質の化学・代謝に関わる著書および論文を輪読し、そこに含まれる総論的な脂質の基本知識を整理して内容について討議する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 各回の演習について予習・復習2時間程度。 日頃から演習で使用する論文以外の脂質生化学関連の論文に関心を持ち、また、海外の英文雑誌にも関心を持つこと。</p> <p>[ 授業計画 ] 1. 脂質生化学 I の解説 2～12. 各自が下記の内容に関する著書および論文を選択し、内容の説明と討議を行う。 a 脂質の種類と機能 b 脂質の消化と吸収 c 脂質代謝とその調節 d 脂質代謝と疾病 13. まとめ</p> <p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題(50%)・レポート(50%) レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし (なし)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	生化学演習Ⅱb	後期	2単位										
サブタイトル													
担当者	小倉 嘉夫												
[実務経験のある教員による授業]													
[到達目標] 本演習では脂質の生化学に関わる基本的な知識を習得するために最近の研究論文や総説を読み、広範の脂質化学および代謝の知識の整理と本質的な理解を目標とする。													
[授業概要] 三大栄養素の1つである脂質はきわめて多方面にそして多彩な作用をはたしている。分子生物学の進歩によりこれらの多彩な生命現象が次々と明らかになっている現状で脂質代謝の意味を理解することは大切である。最近の脂質生化学のトピックスを中心に国内外の著書および研究論文を輪読し、そこに含まれる各論的な脂質の基礎知識を整理して内容について討議する。													
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の演習について予習復習2時間程度。 日頃から演習で使用する論文以外の脂質生化学関連の論文に関心を持ち、また、海外の英文雑誌にも関心を持つこと。													
[授業計画] 1. 脂質生化学Ⅱの解説 2～12. 各自が下記のキーワードの内容に関する著書および論文を選択し、内容の説明と討議を行う。 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>a 脂肪酸</td> <td>f 肥満</td> </tr> <tr> <td>b コレステロール</td> <td>g トランスポーター</td> </tr> <tr> <td>c 中性脂肪</td> <td>h 脂質代謝異常症</td> </tr> <tr> <td>d 胆汁酸</td> <td>i その他</td> </tr> <tr> <td>e リポタンパク質</td> <td></td> </tr> </table> 13. まとめ				a 脂肪酸	f 肥満	b コレステロール	g トランスポーター	c 中性脂肪	h 脂質代謝異常症	d 胆汁酸	i その他	e リポタンパク質	
a 脂肪酸	f 肥満												
b コレステロール	g トランスポーター												
c 中性脂肪	h 脂質代謝異常症												
d 胆汁酸	i その他												
e リポタンパク質													
[成績評価方法] 授業中の課題(50%)・レポート(50%) レポートは、後日添削して返却する。													
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。													
[教科書(ISBN)] なし													
[参考書(ISBN)] なし													

科目名	生化学特論 I	後期	2 単位
サブタイトル	免疫のしくみ		
担当者	田村 奈緒子		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 免疫応答についての分子レベルでの講義を通し、自然免疫と獲得免疫からなるシステムとしての免疫系と病原性微生物の排除機構の暴走としてのアレルギー反応を理解する。 免疫グロブリン、抗原認識、抗原の処理とT細胞への提示を分子レベルで理解する。 当講義は教職課程認定課目であり、免疫機構を分子レベルで学び、食物アレルギーやシックハウス症候群、花粉症などについて引き起こされるメカニズムを学ぶことは将来教職員として中高生を指導する際に有効に活用されると考えられる。			
[ 授業概要 ] 免疫応答およびアレルギーを引き起こすメカニズムについて講義する。免疫担当細胞の役割、シグナル伝達、免疫調節の分子機構、免疫疾患について概説する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 生体防御反応としての免疫機能と、その異常によっておこる疾患について今まで学んだことをまとめ理解しておく。メディアで知ったり、身近な人の話で関連のあること、興味のあることをまとめておく。			
[ 授業計画 ] 1. リンパ球の発生と分化 2. リンパ組織の形成と機能 3. リンパ球機能と細胞内シグナル伝達 4. 抗原プロセッシングと提示 5. 免疫系におけるアポトーシスの分子機構 6. 抗リン脂質抗体症候群 7. サイトカインと自己免疫疾患 8. 単一遺伝子変異による自己免疫性関節炎 9. 抑制型受容体によるアレルギーの制御 10. ヒスタミン受容体シグナルによる免疫反応の制御 11. アレルギー疾患治療 12. 粘膜免疫 13. 免疫不全症とその治療			
[ 成績評価方法 ] レポート			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書 (ISBN) ] プリントを使用する 著者名:田村奈緒子			
[ 参考書 (ISBN) ] 分子細胞免疫学 原著第5版 著者名:著 Abbas,Abul K., Lichtman,Andrew H. 監訳 松島綱治, 山田幸宏 出版社:エルゼビア・ジャパン (978-4860348717)			

科目名	生物化学演習a	前期	2 単位
サブタイトル	アポトーシスについて学ぼう		
担当者	田村 奈緒子		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 細胞死の一形態であるアポトーシスとは何かをわかりやすく人に説明できるようになる.			
[ 授業概要 ] 研究の進歩が著しい分野アポトーシスについてaでは基本的事項を確認する.			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 1. アポトーシスについて, 学部学生時使った教科書で出てきた事項を確認しておく. 2. 分化や発生においてアポトーシスが関連していると考えられる事象を調べておく. 3. がんや感染症においてアポトーシスが関連していると考えられる事象を調べておく.			
[ 授業計画 ] 1. アポトーシスとは①言葉の由来と意義, 特徴など. 2. アポトーシスとは②概論; 疾病とのかかわり 3. アポトーシスの分子機構①-1 Fas/Fasリガンド 4. アポトーシスの分子機構①-2 ヒト疾患との関係 5. アポトーシスの分子機構②-1 p53および類縁遺伝子 6. アポトーシスの分子機構②-2 がんの臨床とp53 7. アポトーシスの分子機構③-1 シグナル伝達とプログラム細胞死 8. アポトーシスの分子機構③-2 カスパーゼ非依存的細胞死 9. アポトーシスの分子機構④-1 カスパーゼ 10. アポトーシスの分子機構④-2 カスパーゼ阻害の疾患研究への応用 11. アポトーシスの分子機構⑤-1 Bcl-2ファミリータンパクによるアポトーシスの制御 12. アポトーシスの分子機構⑤-2 疾病治療の観点からみたBcl-2ファミリー 13. アポトーシスの分子機構⑥ DNAエンドヌクレアーゼ			
[ 成績評価方法 ] レポート40% 講義中の質疑応答, 発表60%			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書 (ISBN) ] 新アポトーシスの分子医学 著者名:橋本嘉幸・山田 武 出版社:羊土社 (4-89706-549-6 C3047)			
[ 参考書 (ISBN) ] なし			

科目名	生物化学演習b	後期	2 単位
サブタイトル	アポトーシスと疾患		
担当者	田村 奈緒子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 細胞死の一形態であるアポトーシスと疾患とのかかわりをわかりやすく人に説明できるようになる.</p> <p>[ 授業概要 ] 研究の進歩が著しい分野アポトーシスについてbでは発生とのまた疾病とのかかわりを理解する</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 1. アポトーシスについて, 生物化学演習aで学んだ事項を確認しておく. 2. 生物にとってのアポトーシスのもつ役割, 意義について考えをまとめておく.</p> <p>[ 授業計画 ] 1. 発生とアポトーシス 2. 細胞死への引き金 3. アポトーシスと疾患とのかかわり①発生過程 4. アポトーシスと疾患とのかかわり②病理学的侵襲 5. アポトーシスと疾患とのかかわり③炎症 6. アポトーシスと疾患とのかかわり④免疫異常 7. アポトーシスと疾患とのかかわり⑤臓器移植 8. アポトーシスと疾患とのかかわり⑥遺伝的侵襲 9. アポトーシスと疾患とのかかわり⑦タンパク質分子の異常 10. アポトーシスと疾患とのかかわり⑧ウイルス感染 11. アポトーシスと疾患とのかかわり⑨神経疾患 12. アポトーシスと疾患とのかかわり⑩細胞がん化 13. アポトーシスと疾患とのかかわり⑪がん化学療法</p> <p>[ 成績評価方法 ] レポート40% 講義中の質疑応答, 発表60%</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 新アポトーシスの分子医学 著者名:橋本嘉幸・山田 武  出版社:羊土社  (4-89706-549-6 C3047)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	調理科学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	後藤 昌弘		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 調理科学分野の研究論文を読むことにより、研究の現状や論文のまとめ方に関する知識を得る。また、発表や討論することによりまとめる力や発表するスキルの習得を目指す。</p> <p>[ 授業概要 ] 調理科学分野に関する国内の最近の研究論文について講読し、その研究方法や研究成果の活用について相互に発表を行い、討論する。また、その結果の総括を行う。なお、教員養成科目であるため、将来家庭科教員として指導する際に必要な知識、考え方についての内容も含んでいる。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 担当する論文の要点、実験方法や参考文献、関連文献をよく調べておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献検索の仕方と論文の構成</li> <li>2. 論文の書き方、参考文献</li> <li>3. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論</li> <li>4. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論</li> <li>5. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論</li> <li>6. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論</li> <li>7. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論</li> <li>8. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論</li> <li>9. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論</li> <li>10. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論</li> <li>11. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論</li> <li>12. テーマに応じた論文の輪読、発表、討論</li> <li>13. まとめ</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 発表の内容、討論への参加状況、取り組み態度などを総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	調理科学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	後藤 昌弘		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  海外の調理科学や食品科学関連分野の研究論文を読むことにより、研究の現状や論文のまとめ方に関する知識を得る。また、発表や討論することによりまとめる力や発表するスキルの習得を目指す。</p> <p>[ 授業概要 ]  調理科学及び食品科学に関する国外の最近の研究論文を中心に購読または輪読し、その研究方法や研究成果の活用について相互に発表を行い、討論する。また、その結果の総括を行う。なお、教員養成科目であるため、将来家庭科教員として指導する際に必要な知識、考え方についての内容も含んでいる。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  担当する論文の内容をよく読んで把握する。また、実験方法や参考文献についてもよく調べておく。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国論文の検索と構成、読み方</li> <li>2. 各回で選択された論文の発表、討論</li> <li>3. 各回で選択された論文の発表、討論</li> <li>4. 各回で選択された論文の発表、討論</li> <li>5. 各回で選択された論文の発表、討論</li> <li>6. 各回で選択された論文の発表、討論</li> <li>7. 各回で選択された論文の発表、討論</li> <li>8. 各回で選択された論文の発表、討論</li> <li>9. 各回で選択された論文の発表、討論</li> <li>10. 各回で選択された論文の発表、討論</li> <li>11. 各回で選択された論文の発表、討論</li> <li>12. 各回で選択された論文の発表、討論</li> <li>13. まとめ</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]  討論の参加状況、取り組み態度などを総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル	栄養とホルモンによる生体機能調節		
担当者	置村 康彦		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 栄養とホルモンによる生体機能調節に関する理解を深め、生体機能調節を明らかにするための研究方法について習得し、自己のテーマについて何らかの知見を付け加えることができる。			
[ 授業概要 ] 栄養とホルモンによる生体機能調節に関連するテーマで研究を行う。それに必要な事項について実験、実習等を行う。これらの過程で、生体機能解析に関わる一般的な研究手法を指導する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学部レベルの生物学、生化学、生理学、解剖学の知識を習得していること			
[ 授業計画 ] 1) 栄養とホルモンによる生体機能調節に関わる先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出 2) 抄読会、関連文献紹介 3) 解析手法に関する検討 4) 研究計画作成 5) 予備実験 6) 本実験1 7) 本実験2 8) 本実験3 9) 本実験4 10) 本実験5 11) 本実験6 12) 本実験7 13) 本実験8 14) 本実験9 15) 本実験10 16) 本実験11 17) 本実験12 18) 本実験13 19) 本実験14 20) 本実験15 21) 本実験16 22) 本実験17 23) 実験成績のまとめ 24) 学会発表準備 25) 論文作成 26) 追加実験、論文発表			
[ 成績評価方法 ] 研究に関する主体的取り組みの程度で評価する			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ] なし 著者名:なし			
[ 参考書(ISBN) ] Essential細胞生物学(原書第4版) 著者名:中村桂子、松原謙一監訳 出版社:南江堂 (978-4524261994)			

科目名	特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル	胆汁酸代謝と生体機能調節		
担当者	小倉 嘉夫		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ]			
1)胆汁酸代謝と生体機能調節の理解を深める 2)研究方法について習得する			
[ 授業概要 ]			
胆汁酸代謝と生体機能調節に関連するテーマで研究を行う。それに必要な事項について講義、実習等を行う。これらの過程で、一次胆汁酸生成と腸内細菌による二次胆汁酸生成及びそれらの生体機能解析に関わる一般的な研究手法を習得する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]			
学部レベルの生物学、生化学、生理学、解剖学の知識を習得していること			
[ 授業計画 ]			
1)胆汁酸代謝の概要 I 2)胆汁酸代謝の概要 II 3)胆汁酸代謝と生体機能調節に関わる先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出 I 4)胆汁酸代謝と生体機能調節に関わる先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出 II 5)抄読会 I 6)抄読会 II 7)関連文献紹介 I 8)関連文献紹介 II 9)解析手法に関する検討 I 10)解析手法に関する検討 II 11)研究計画作成 I 12)研究計画作成 II 13)予備実験 I 14)予備実験 II 15)本実験 I 16)本実験 II 17)実験成績のまとめ I 18)実験成績のまとめ II 19)学会発表準備 I 20)学会発表準備 II 21)論文作成 I 22)論文作成 II 23)追加実験 I 24)追加実験 II 25)論文発表 I 26)論文発表 II			
[ 成績評価方法 ]			
研究に関する主体的取り組みの程度で評価する			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書 (ISBN) ]			
なし 出版社:なし			
[ 参考書 (ISBN) ]			
なし 出版社:なし			

科目名	特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル	栄養とホルモンによる生体機能調節		
担当者	狩野 百合子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>1) 栄養とホルモンによる生体機能調節の理解を深める 2) 研究方法について習得する</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>栄養とホルモンによる生体機能調節に関連するテーマで研究を行う。それに必要な事項について講義、実習等を行う。これらの過程で、生体機能解析に関わる一般的な研究手法を習得する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]</p> <p>学部レベルの生物学、生化学、生理学、解剖学の知識を習得していること</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1) 栄養とホルモンによる生体機能調節に関わる先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出 2) 抄読会 3) 関連文献紹介 4) 解析手法に関する検討 5) 実験方法の検討 6) 研究計画作成 7) 予備実験 8) 本実験 9) 実験成績のまとめ 10) 学会発表準備 11) 論文作成 12) 追加実験 13) 論文発表</p> <p>各2回</p> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>研究に関する主体的取り組みの程度で評価する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>なし 出版社:なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p> <p>なし 出版社:なし</p>			

科目名	特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル	食品成分や微量栄養素、非栄養素の高血圧、糖尿病またはがん発症予防効果		
担当者	栗原 伸公		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ]			
1)食品成分または微量栄養素、非栄養素の生体への影響に関する最先端の研究状況を学ぶ 2)研究方法について習得する			
[ 授業概要 ]			
食品成分や微量栄養素、非栄養素の高血圧、糖尿病またはがん発症予防効果に関連するテーマで研究を行う。それに必要な事項について講義、実習等を行う。これらの過程で、生体機能解析に関わる一般的な研究手法を習得する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]			
学部レベルの生物学、生化学、生理学、解剖学、生物統計学の知識を習得していること			
[ 授業計画 ]			
1)食品成分や微量栄養素、非栄養素の高血圧、糖尿病またはがん発症予防効果に関わる先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出1 2)食品成分や微量栄養素、非栄養素の高血圧、糖尿病またはがん発症予防効果に関わる先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出2 3)抄読会、関連文献紹介1 4)抄読会、関連文献紹介2 5)抄読会、関連文献紹介3 6)解析手法に関する検討(a)1 7)解析手法に関する検討(a)2 8)解析手法に関する検討(a)3 9)研究計画作成(a)1 10)研究計画作成(a)2 11)予備実験(a)1 12)予備実験(a)2 13)本実験(a)1 14)本実験(a)2 15)本実験(a)3 16)本実験(a)4 17)本実験(a)5 18)実験成績のまとめ(a)1 19)実験成績のまとめ(a)2 20)実験成績のまとめ(a)3 21)学会発表準備(a)1 22)学会発表準備(a)2 23)論文作成(a)1 24)論文作成(a)2 25)追加実験、論文発表(a)1 26)追加実験、論文発表(a)2			
[ 成績評価方法 ]			
研究に関する主体的取り組みの程度で評価する(100%)			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書 (ISBN) ]			
なし			
[ 参考書 (ISBN) ]			
なし			

G63005A [ MSB6-034 ]

科目名	特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	後藤 昌弘		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 研究テーマを履修者各自が設定し、それについて、多角的な調査研究指導を行うことによって、学会発表できるレベルの論文が完成できるようにすることが、この科目の目標である。これら、一連の内容を学ぶことは、将来教職員として中・高生を指導する場合に資するものと考えている。			
[ 授業概要 ] 論文の紹介、最近の学術研究の紹介をおこない、ついで、各自の関心にもとづくテーマ設定と関連文献の検討を行った上で、本格的な調査研究の枠組み、方法、分析、まとめ方、論文の書き方を学ぶ。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 事前に配布資料を読み、当日の質問に回答できるようにしておく。			
[ 授業計画 ] 1. 研究の紹介a 2. 関連学会や文献の紹介a 3. 当面のテーマの設定と検討Ⅰa 4. 当面のテーマの設定と検討Ⅱa 5. 関連文献の紹介a 6. テーマに対する仮説の説明, 検討a 7. 研究方法の検討Ⅰa 8. 研究方法の検討Ⅱa 9. 実験条件の検討a 10. 予備実験の実施と結果の検討Ⅰa 11. 予備実験の実施と結果の検討Ⅱa 12. 実験の実施と結果検討Ⅰa 13. 実験の実施と結果検討Ⅱa 14. 実験の実施と結果検討Ⅲa 15. 実験の実施と結果検討Ⅳa 16. 実験の実施と結果検討Ⅴa 17. 実験の実施と結果検討Ⅵa 18. 実験の実施と結果検討Ⅶa 19. 実験の実施と結果検討Ⅷa 20. 実験の実施と結果検討Ⅸa 21. 実験の実施と結果検討Ⅹa 22. 実験結果(データ)のまとめa 23. 結果データの処理方法と検討a 24. 報告書(または論文)のプレゼンテーションa 25. 報告書または論文の検討とまとめⅠa 26. 報告書または論文の検討とまとめⅡa			
[ 成績評価方法 ] 研究に対する取組みの姿勢、ディスカッションの状況等を総合して評価する。			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ] なし			
[ 参考書(ISBN) ] なし			

科目名	特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	宮本 有香		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  食物栄養学に関する特別な研究テーマを履修者各自が設定し、多角的な調査研究指導を行うことにより、学会発表ができるレベルの論文を完成できるようにする。</p> <p>[ 授業概要 ]  これまで取り組んできた研究内容について論文紹介、近年の学術研究についての紹介を行い、各自の関心に基づくテーマを設定し、関連文献の検討を行う。  さらに、調査研究についての、方法、分析、データ解析、まとめ方、論文の書き方を学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  学部で習得した食品に関する知識を復習しておくこと</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまで取り組んだ研究の紹介</li> <li>2. 抄読会、関連文献の紹介</li> <li>3. テーマの検討</li> <li>4. 研究計画の検討</li> <li>5.～18. 実験方法の検討・実験・結果報告</li> <li>19.～23.データの集計・論文作成</li> <li>24.論文発表準備</li> <li>25.論文発表準備</li> <li>26.論文発表</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]  研究に対する主体的取り組みの程度で評価する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  なし</p>			

科目名	特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル	食品として摂取する生理活性物質による生体機能調節		
担当者	田村 奈緒子		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ]			
1) 栄養とホルモンによる生体機能調節の理解を深める			
2) 研究方法について習得する			
[ 授業概要 ]			
栄養とホルモンによる生体機能調節に関連するテーマで研究を行う。それに必要な事項について講義、実習等を行う。これらの過程で、生体機能解析に関わる一般的な研究手法を習得する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]			
学部レベルの生物学、生化学、生理学、解剖学の知識を習得していること			
[ 授業計画 ]			
1) 栄養とホルモンによる生体機能調節に関わる先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出1			
2) 栄養とホルモンによる生体機能調節に関わる先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出2			
3) 抄読会、関連文献紹介1			
4) 抄読会、関連文献紹介2			
5) 解析手法に関する検討1			
6) 解析手法に関する検討2			
7) 研究計画作成1			
8) 研究計画作成2			
9) 予備実験1			
10) 予備実験2			
11) 研究計画検討1			
12) 研究計画検討2			
13) 本実験1			
13) 本実験2			
15) ディスカッション1			
16) ディスカッション2			
17) 本実験3			
18) 本実験4			
19) 実験成績のまとめ1			
20) 実験成績のまとめ2			
21) 学会発表準備1			
22) 学会発表準備2			
23) 論文作成1			
24) 論文作成2			
25) 追加実験、論文発表1			
26) 追加実験、論文発表2			
[ 成績評価方法 ]			
研究に関する主体的取り組みの程度で評価する			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ]			
なし			
[ 参考書(ISBN) ]			
なし			

科目名	特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	甲斐 達男		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>1. 食品微生物に関する研究テーマを履修者各自が設定し、研究計画の立案および遂行する能力を修得する。  2. 学会発表および学術論文投稿に必要な専門知識と能力を修得する。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>食品微生物に関する最新の研究動向を学習し、その中で、各自が興味をもつ研究テーマを設定する。解明すべき課題を選定し、そのための研究手法を先行研究の調査によって検討し、研究を実施する。得られた研究成果を、学会や研究会で発表し、研究論文としてまとめる。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]</p> <p>食品微生物に関連する書籍や文献を積極的に読んで、幅広い知識と好奇心を培って頂きたい。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食品微生物学における研究動向の調査</li> <li>2. 研究課題に関する討論</li> <li>3. 研究課題の設定</li> <li>4. 先行研究に関する調査、および、解明すべき問題の選定</li> <li>5. 先行研究に関する調査、および、研究計画の立案</li> <li>6. 先行研究に関する調査、および、実験手法の精査</li> <li>7. 予備実験(1)</li> <li>8. 予備実験(2)</li> <li>9. 予備実験(3)</li> <li>10. 予備実験(4)</li> <li>11. 予備実験(5)</li> <li>12. 本実験(1)</li> <li>13. 本実験(2)</li> <li>14. 本実験(3)</li> <li>15. 本実験(4)</li> <li>16. 本実験(5)</li> <li>17. 本実験(6)</li> <li>18. 本実験(7)</li> <li>19. 本実験(8)</li> <li>20. 本実験(9)</li> <li>21. 本実験(10)</li> <li>22. 本実験(11)</li> <li>23. 本実験(12)</li> <li>24. 実験結果のまとめ</li> <li>25. 学会発表</li> <li>26. 研究論文のまとめ</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>研究に関する主体的取り組みの程度で評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]</p> <p>なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p> <p>適宜、紹介する。</p>			

科目名	特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	竹中 優		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ] 1)科学的論理的な考え方を習得する 2)研究方法について習得する 3)関連する英文文献を熟読し理解する</p> <p>[ 授業概要 ] 基本的な分子生物学的手法と臨床栄養学的手法を用いて研究を行う。それに必要な事項について講義、実習等を行う。これらの過程で、仮説を検証する為の考え方や研究手法を習得する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学部レベルの生物学、生化学、生理学、解剖学の知識を習得していること</p> <p>[ 授業計画 ] 1)先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出 2)抄読会、関連文献紹介 3)解析手法に関する検討 4)研究計画作成 5)予備実験 6)本実験1 7)本実験2 8)本実験3 9)本実験4 10)本実験5 11)本実験6 12)本実験7 13)本実験8 14)本実験9 15)本実験10 16)本実験11 17)本実験12 18)実験成績のまとめ1 19)実験成績のまとめ2 20)実験成績のまとめ3 21)実験成績のまとめ4 22)実験成績のまとめ5 23)実験成績のまとめ6 24)学会発表準備 25)論文作成 26)追加実験、論文発表</p> <p>[ 成績評価方法 ] 研究に関する主体的取り組みの程度で評価する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	木村 万里子		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ]			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食品成分の構造・機能解析に関わる研究手法を修得する。</li> <li>2. 学会発表や論文投稿に必要な高度な専門的知識・能力を養う。</li> </ol>			
[ 授業概要 ]			
<p>主に豆類に含まれる機能性成分(ペプチド、オリゴ糖、レクチン等)の構造特性と生体機能調節に関連するテーマで研究を行う。得られた研究成果は統計処理を行い、関連の学会や研究会で発表を行う。また、学修の集大成として、研究成果を修士論文としてまとめる。</p>			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]			
<p>学部レベルの化学、生物学、生化学、食品学等の知識を習得していること。各回、予習復習合わせて2時間です。</p>			
[ 授業計画 ]			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出</li> <li>2. 先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出と検証</li> <li>3. 先行研究に関する調査、解明すべき問題解決法の立案</li> <li>4. 抄読会、関連文献紹介</li> <li>5. 解析手法に関する検討</li> <li>6. 研究計画作成</li> <li>7. 予備実験</li> <li>8. 本実験①</li> <li>9. 本実験②</li> <li>10. 本実験③</li> <li>11. 本実験④</li> <li>12. 本実験⑤</li> <li>13. 本実験⑥</li> <li>14. 本実験⑦</li> <li>15. 本実験⑧</li> <li>16. 本実験⑨</li> <li>17. 本実験⑩</li> <li>18. 本実験⑪</li> <li>19. 本実験⑫</li> <li>20. 研究結果のまとめと統計処理、修士論文作成①</li> <li>21. 研究結果のまとめと統計処理、修士論文作成②</li> <li>22. 研究結果のまとめと統計処理、修士論文作成③</li> <li>23. 研究結果のまとめと統計処理、修士論文作成④</li> <li>24. 学会発表</li> <li>25. 修士論文討論発表会、質疑応答</li> <li>26. 修士論文の修正、提出</li> </ol>			
[ 成績評価方法 ]			
<p>研究論文(70%)、研究発表(30%)</p>			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]			
<p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p>			
[ 教科書(ISBN) ]			
<p>なし(プリント配布)</p>			
[ 参考書(ISBN) ]			
<p>適宜指示する</p>			

科目名	特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル	栄養とホルモンによる生体機能調節		
担当者	置村 康彦		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 栄養とホルモンによる生体機能調節に関する理解を深め、生体機能調節を明らかにするための研究方法について習得し、自己のテーマについて何らかの知見を付け加えることができる。			
[ 授業概要 ] 栄養とホルモンによる生体機能調節に関連するテーマで研究を行う。それに必要な事項について実験、実習等を行う。これらの過程で、生体機能解析に関わる一般的な研究手法を指導する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学部レベルの生物学、生化学、生理学、解剖学の知識を習得していること			
[ 授業計画 ] 1) 栄養とホルモンによる生体機能調節に関わる先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出 2) 抄読会、関連文献紹介 3) 解析手法に関する検討 4) 研究計画作成 5) 予備実験 6) 本実験1 7) 本実験2 8) 本実験3 9) 本実験4 10) 本実験5 11) 本実験6 12) 本実験7 13) 本実験8 14) 本実験9 15) 本実験10 16) 本実験11 17) 本実験12 18) 本実験13 19) 本実験14 20) 本実験15 21) 本実験16 22) 本実験17 23) 実験成績のまとめ 24) 学会発表準備 25) 論文作成 26) 追加実験、論文発表			
[ 成績評価方法 ] 研究に関する主体的取り組みの程度で評価する			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ] なし 著者名:なし			
[ 参考書(ISBN) ] Essential細胞生物学(原書第4版) 著者名:中村桂子、松原謙一監訳 出版社:南江堂 (978-4524261994)			

科目名	特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル	胆汁酸代謝と生体機能調節		
担当者	小倉 嘉夫		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ]			
1)胆汁酸代謝と生体機能調節の理解を深める 2)研究方法について習得する			
[ 授業概要 ]			
胆汁酸代謝と生体機能調節に関連するテーマで研究を行う。それに必要な事項について講義、実習等を行う。これらの過程で、一次胆汁酸生成と腸内細菌による二次胆汁酸生成及びそれらの生体機能解析に関わる一般的な研究手法を習得する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]			
学部レベルの生物学、生化学、生理学、解剖学の知識を習得していること			
[ 授業計画 ]			
1)胆汁酸代謝の概要Ⅲ 2)胆汁酸代謝の概要Ⅳ 3)胆汁酸代謝と生体機能調節に関わる先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出Ⅲ 4)胆汁酸代謝と生体機能調節に関わる先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出Ⅳ 5)抄読会Ⅲ 6)抄読会Ⅳ 7)関連文献紹介Ⅲ 8)関連文献紹介Ⅳ 9)解析手法に関する検討Ⅲ 10)解析手法に関する検討Ⅳ 11)研究計画作成Ⅲ 12)研究計画作成Ⅳ 13)予備実験Ⅲ 14)予備実験Ⅳ 15)本実験Ⅲ 16)本実験Ⅳ 17)実験成績のまとめⅢ 18)実験成績のまとめⅣ 19)学会発表準備Ⅲ 20)学会発表準備Ⅳ 21)論文作成Ⅲ 22)論文作成Ⅳ 23)追加実験Ⅲ 24)追加実験Ⅳ 25)論文発表Ⅲ 26)論文発表Ⅳ			
[ 成績評価方法 ]			
研究に関する主体的取り組みの程度で評価する			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書 (ISBN) ]			
なし 出版社:なし			
[ 参考書 (ISBN) ]			
なし 出版社:なし			

科目名	特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル	栄養とホルモンによる生体機能調節		
担当者	狩野 百合子		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ]			
1) 栄養とホルモンによる生体機能調節の理解を深める			
2) 研究方法について習得する			
[ 授業概要 ]			
栄養とホルモンによる生体機能調節に関連するテーマで研究を行う。それに必要な事項について講義、実習等を行う。これらの過程で、生体機能解析に関わる一般的な研究手法を習得する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]			
学部レベルの生物学、生化学、生理学、解剖学の知識を習得していること			
[ 授業計画 ]			
1) 栄養とホルモンによる生体機能調節に関わる先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出			
2) 抄読会			
3) 関連文献紹介			
4) 解析手法に関する検討			
5) 実験方法の検討			
6) 研究計画作成			
7) 予備実験			
8) 本実験			
9) 実験成績のまとめ			
10) 学会発表準備			
11) 論文作成			
12) 追加実験			
13) 論文発表			
各2回			
[ 成績評価方法 ]			
研究に関する主体的取り組みの程度で評価する			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ]			
なし 出版社:なし			
[ 参考書(ISBN) ]			
なし 出版社:なし			

科目名	特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル	食品成分や微量栄養素、非栄養素の高血圧、糖尿病またはがん発症予防効果		
担当者	栗原 伸公		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ]			
1)食品成分または微量栄養素、非栄養素の生体への影響に関する最先端の研究状況を学ぶ 2)研究方法について習得する			
[ 授業概要 ]			
食品成分や微量栄養素、非栄養素の高血圧、糖尿病またはがん発症予防効果に関連するテーマで研究を行う。それに必要な事項について講義、実習等を行う。これらの過程で、生体機能解析に関わる一般的な研究手法を習得する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]			
学部レベルの生物学、生化学、生理学、解剖学、生物統計学の知識を習得していること			
[ 授業計画 ]			
1)食品成分や微量栄養素、非栄養素の高血圧、糖尿病またはがん発症予防効果に関わる先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出1			
2)食品成分や微量栄養素、非栄養素の高血圧、糖尿病またはがん発症予防効果に関わる先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出2			
3)抄読会、関連文献紹介1			
4)抄読会、関連文献紹介2			
5)抄読会、関連文献紹介3			
6)解析手法に関する検討(b)1			
7)解析手法に関する検討(b)2			
8)解析手法に関する検討(b)3			
9)研究計画作成(b)1			
10)研究計画作成(b)2			
11)予備実験(b)1			
12)予備実験(b)2			
13)本実験(b)1			
14)本実験(b)2			
15)本実験(b)3			
16)本実験(b)4			
17)本実験(b)5			
18)実験成績のまとめ(b)1			
19)実験成績のまとめ(b)2			
20)実験成績のまとめ(b)3			
21)学会発表準備(b)1			
22)学会発表準備(b)2			
23)論文作成(b)1			
24)論文作成(b)2			
25)追加実験、論文発表(b)1			
26)追加実験、論文発表(b)2			
[ 成績評価方法 ]			
研究に関する主体的取り組みの程度で評価する(100%)			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書 (ISBN) ]			
なし			
[ 参考書 (ISBN) ]			
なし			

科目名	特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	後藤 昌弘		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  研究テーマを履修者各自が設定し、それについて、多角的な調査研究指導を行うことによって、学会発表できるレベルの論文が完成できるようにすることが、この科目の目標である。これら、一連の内容を学ぶことは、将来教職員として中・高生を指導する場合に資するものと考えている。</p> <p>[ 授業概要 ]  論文の紹介、最近の学術研究の紹介をおこない、ついで、各自の関心にもとづくテーマ設定と関連文献の検討を行った上で、本格的な調査研究の枠組み、方法、分析、まとめ方、論文の書き方を学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  事前に配布資料を読み、当日の質問に回答できるようにしておく。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究の紹介b</li> <li>2. 関連学会や文献の紹介b</li> <li>3. 当面のテーマの設定と検討 I b</li> <li>4. 当面のテーマの設定と検討 II b</li> <li>5. 関連文献の紹介b</li> <li>6. テーマに対する仮説の説明, 検討b</li> <li>7. 研究方法の検討 I b</li> <li>8. 研究方法の検討 II b</li> <li>9. 実験条件の検討b</li> <li>10. 予備実験の実施と結果の検討 I b</li> <li>11. 予備実験の実施と結果の検討 II b</li> <li>12. 実験の実施と結果検討 I b</li> <li>13. 実験の実施と結果検討 II b</li> <li>14. 実験の実施と結果検討 III b</li> <li>15. 実験の実施と結果検討 IV b</li> <li>16. 実験の実施と結果検討 V b</li> <li>17. 実験の実施と結果検討 VI b</li> <li>18. 実験の実施と結果検討 VII b</li> <li>19. 実験の実施と結果検討 VIII b</li> <li>20. 実験の実施と結果検討 IX b</li> <li>21. 実験の実施と結果検討 X b</li> <li>22. 実験結果(データ)のまとめb</li> <li>23. 結果データの処理方法と検討b</li> <li>24. 報告書(または論文)のプレゼンテーションb</li> <li>25. 報告書または論文の検討とまとめ I b</li> <li>26. 報告書または論文の検討とまとめ II b</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]  研究に対する取組みの姿勢、ディスカッションの状況等を総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	宮本 有香		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  食物栄養学に関する特別な研究テーマを履修者各自が設定し、多角的な調査研究指導を行うことにより、学会発表ができるレベルの論文を完成できるようにする。</p> <p>[ 授業概要 ]  これまで取り組んできた研究内容について論文紹介、近年の学術研究についての紹介を行い、各自の関心に基づくテーマを設定し、関連文献の検討を行う。  さらに、調査研究についての、方法、分析、データ解析、まとめ方、論文の書き方を学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  学部で習得した食品に関する知識を復習しておくこと</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまで取り組んだ研究の紹介</li> <li>2. 抄読会、関連文献の紹介</li> <li>3. テーマの検討</li> <li>4. 研究計画の検討</li> <li>5.～18. 実験方法の検討・実験・結果報告</li> <li>19.～23.データの集計・論文作成</li> <li>24.論文発表準備</li> <li>25.論文発表準備</li> <li>26.論文発表</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]  研究に対する主体的取り組みの程度で評価する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  なし</p>			

科目名	特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル	食品として摂取する生理活性物質による生体機能調節		
担当者	田村 奈緒子		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ]			
1) 栄養とホルモンによる生体機能調節の理解を深める 2) 研究方法について習得する			
[ 授業概要 ]			
栄養とホルモンによる生体機能調節に関連するテーマで研究を行う。それに必要な事項について講義、実習等を行う。これらの過程で、生体機能解析に関わる一般的な研究手法を習得する。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]			
学部レベルの生物学、生化学、生理学、解剖学の知識を習得していること			
[ 授業計画 ]			
1) 栄養とホルモンによる生体機能調節に関わる先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出3 2) 栄養とホルモンによる生体機能調節に関わる先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出4 3) 抄読会、関連文献紹介3 4) 抄読会、関連文献紹介4 5) 解析手法に関する検討3 6) 解析手法に関する検討4 7) 研究計画作成3 8) 研究計画作成4 9) 予備実験3 10) 予備実験4 11) 研究計画検討3 12) 研究計画検討4 13) 本実験5 13) 本実験6 15) ディスカッション3 16) ディスカッション4 17) 本実験7 18) 本実験8 19) 実験成績のまとめ3 20) 実験成績のまとめ4 21) 学会発表準備3 22) 学会発表準備4 23) 論文作成3 24) 論文作成4 25) 追加実験、論文発表3 26) 追加実験、論文発表4			
[ 成績評価方法 ]			
研究に関する主体的取り組みの程度で評価する			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ]			
なし			
[ 参考書(ISBN) ]			
なし			

科目名	特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	甲斐 達男		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>1. 食品微生物に関する研究テーマを履修者各自が設定し、研究計画の立案および遂行する能力を修得する。 2. 学会発表および学術論文投稿に必要な専門知識と能力を修得する。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>食品微生物に関する最新の研究動向を学習し、その中で、各自が興味をもつ研究テーマを設定する。解明すべき課題を選定し、そのための研究手法を先行研究の調査によって検討し、研究を実施する。得られた研究成果を、学会や研究会で発表し、研究論文としてまとめる。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]</p> <p>食品微生物に関連する書籍や文献を積極的に読んで、幅広い知識と好奇心を培って頂きたい。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食品微生物学における研究動向の調査</li> <li>2. 研究課題に関する討論</li> <li>3. 研究課題の設定</li> <li>4. 先行研究に関する調査、および、解明すべき問題の選定</li> <li>5. 先行研究に関する調査、および、研究計画の立案</li> <li>6. 先行研究に関する調査、および、実験手法の精査</li> <li>7. 予備実験(1)</li> <li>8. 予備実験(2)</li> <li>9. 予備実験(3)</li> <li>10. 予備実験(4)</li> <li>11. 予備実験(5)</li> <li>12. 本実験(1)</li> <li>13. 本実験(2)</li> <li>14. 本実験(3)</li> <li>15. 本実験(4)</li> <li>16. 本実験(5)</li> <li>17. 本実験(6)</li> <li>18. 本実験(7)</li> <li>19. 本実験(8)</li> <li>20. 本実験(9)</li> <li>21. 本実験(10)</li> <li>22. 本実験(11)</li> <li>23. 本実験(12)</li> <li>24. 実験結果のまとめ</li> <li>25. 学会発表</li> <li>26. 研究論文のまとめ</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>研究に関する主体的取り組みの程度で評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p> <p>適宜、紹介する。</p>			

科目名	特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	竹中 優		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ] 1)科学的論理的な考え方を習得する 2)研究方法について習得する 3)関連する英文文献を熟読し理解する</p> <p>[ 授業概要 ] 基本的な分子生物学的手法と臨床栄養学的手法を用いて研究を行う。それに必要な事項について講義、実習等を行う。これらの過程で、仮説を検証する為の考え方や研究手法を習得する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 学部レベルの生物学、生化学、生理学、解剖学の知識を習得していること</p> <p>[ 授業計画 ] 1)先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出 2)抄読会、関連文献紹介 3)解析手法に関する検討 4)研究計画作成 5)予備実験 6)本実験1 7)本実験2 8)本実験3 9)本実験4 10)本実験5 11)本実験6 12)本実験7 13)本実験8 14)本実験9 15)本実験10 16)本実験11 17)本実験12 18)実験成績のまとめ1 19)実験成績のまとめ2 20)実験成績のまとめ3 21)実験成績のまとめ4 22)実験成績のまとめ5 23)実験成績のまとめ6 24)学会発表準備 25)論文作成 26)追加実験、論文発表</p> <p>[ 成績評価方法 ] 研究に関する主体的取り組みの程度で評価する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	木村 万里子		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ]			
1. 食品成分の構造・機能解析に関わる研究手法を修得する。 2. 学会発表や論文投稿に必要な高度な専門的知識・能力を養う。			
[ 授業概要 ]			
主に豆類に含まれる機能性成分(ペプチド、オリゴ糖、レクチン等)の構造特性と生体機能調節に関連するテーマで研究を行う。得られた研究成果は統計処理を行い、関連の学会や研究会で発表を行う。また、学修の集大成として、研究成果を修士論文としてまとめる。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]			
学部レベルの化学、生物学、生化学、食品学等の知識を習得していること。各回、予習復習合わせて2時間です。			
[ 授業計画 ]			
1. 先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出 2. 先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出と検証 3. 先行研究に関する調査、解明すべき問題解決法の立案 4. 抄読会、関連文献紹介 5. 解析手法に関する検討 6. 研究計画作成 7. 予備実験 8. 本実験① 9. 本実験② 10. 本実験③ 11. 本実験④ 12. 本実験⑤ 13. 本実験⑥ 14. 本実験⑦ 15. 本実験⑧ 16. 本実験⑨ 17. 本実験⑩ 18. 本実験⑪ 19. 本実験⑫ 20. 研究結果のまとめと統計処理、修士論文作成① 21. 研究結果のまとめと統計処理、修士論文作成② 22. 研究結果のまとめと統計処理、修士論文作成③ 23. 研究結果のまとめと統計処理、修士論文作成④ 24. 学会発表 25. 修士論文討論発表会、質疑応答 26. 修士論文の修正、提出			
[ 成績評価方法 ]			
研究論文(70%)、研究発表(30%)			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ]			
なし(プリント配布)			
[ 参考書(ISBN) ]			
適宜指示する			

科目名	病態栄養学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	置村 康彦		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  実験系の研究方法の概要を理解し、初歩的な研究計画を立てることができる。</p> <p>[ 授業概要 ]  次の事項に関して私の研究室で行っている方法をお話し、一部を体験してもらいます。</p> <p>文献検索  データベースの利用  研究計画の立案  実験ノートの書き方  研究結果のまとめ方  Lab Meeting  プレゼンテーション  論文作成  有用な辞書、ソフトなどの活用</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  基本的な生物学、生化学、生理学、臨床栄養学の知識を必要としますので、学部レベルの知識を習得しておくことが望ましい。各回、予習復習合わせて2時間程度の学修が必要です。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 文献の探し方、文献データベースの利用法/PubMED、Jstage、医中誌を利用した文献検索演習</li> <li>3. 文献以外の情報検索 (NCBI nucleotide、gene、OMIN、blast、primer blast、DBCLS TOGO TVなど)</li> <li>4. 研究倫理</li> <li>5. 研究計画の立案</li> <li>6. 実験方法、手技の理解I 細胞培養</li> <li>7. 実験方法、手技の理解II RNA抽出・測定、RT-PCR、タンパク量の測定</li> <li>8. 実験方法、手技の理解III western blot、免疫沈降</li> <li>9. 研究結果の整理、実験ノートの書き方/保存</li> <li>10. Lab Meeting、研究室管理運営</li> <li>11. 論文作成法、その実際</li> <li>12. プレゼンテーションの方法、その実際</li> <li>13. まとめ</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]  演習参加への熱心さ、発表等積極的な関与の程度を評価対象とします。毎回、各学生個別にフィードバック指導を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	病態栄養学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	置村 康彦		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 抄読会を通じて自己の研究に関連する分野の最近の動向についてわかる。</p> <p>[ 授業概要 ] 抄読会形式で行ないます。 各週の担当者が自己の研究に関連する文献を、その背景を含めて紹介し、その内容に関して参加メンバー全員で討論を行ないます。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 高校レベルの英語の読解力が必要です。文献紹介時には、事前に該当論文をしっかりと読んでおくことが必要です。最初は時間がかかるかと思いますが、しだいに早く読めるようになると思います。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 抄読会1</li> <li>2. 抄読会2</li> <li>3. 抄読会3</li> <li>4. 抄読会4</li> <li>5. 抄読会5</li> <li>6. 抄読会6</li> <li>7. 抄読会7</li> <li>8. 抄読会8</li> <li>9. 抄読会9</li> <li>10. 抄読会10</li> <li>11. 抄読会11</li> <li>12. 抄読会12</li> <li>13. まとめ</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 発表内容、討論への積極性を評価対象とします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし 出版社:なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし 出版社:なし</p>			

科目名	病態栄養学特論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	置村 康彦		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]          栄養やホルモンの作用を理解し、それらの生活習慣病の発症における関与やヒトの発育・老化に及ぼす影響に関する最近の研究成果について知る。</p> <p>[ 授業概要 ]          成長・老化と栄養やホルモンの関連に関する最近の研究成果について講義(一部抄読会)を行います。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]          基本的な生物学、生化学、生理学、臨床栄養学の知識を必要としますので、学部レベルの知識を習得しておくことが望ましい。各回、予習復習合わせて4時間程度の学修が必要です。</p> <p>[ 授業計画 ]          1.イントロダクション          2.成長、体組成維持に関わる栄養とホルモン          3.成長の正常と異常/成長ホルモン分泌機構、発現調節          4.摂食調節          5.味覚受容          6.糖尿病          7.脂質異常症          8.NAFLD/NASH          9.老化          10.サルコペニア/フレイル          11.筋萎縮の仕組み          12.アミノ酸飢餓と統合性ストレス応答          13.まとめ</p> <p>[ 成績評価方法 ]          授業における熱心さ、発表など積極的な関与の有無を評価対象とします。毎回、各学生の理解を確認し、不十分な時には個別にフィードバック指導を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          なし          なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          なし</p>			

科目名	臨床栄養学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	竹中 優		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ] 疾患に関する理解に基づき実践的な臨床栄養学的アプローチを検討する。臨床分野では豊富かつ正確な知識を持つと共に、常に新しい情報を得る事が必要である。主に英語論文・原著・教科書を用い、up-to date な情報収集法についても学ぶ。</p> <p>[ 授業概要 ] 病態生理学的な理解を深める為、必要に応じて解剖生理学・病理学等の基礎的な理解を確認する。疾病者の病態・栄養状態を評価し、それぞれの疾患や病態に応じた治療法としての食事療法、栄養補給法を理解し考える。症例を用いて具体的な応用・臨床栄養学的な考え方を演習する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 各疾患に関し、病態、病因、治療法、特に栄養療法に関しあらかじめ基本的事項を確認する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 腎臓の解剖生理と病態</li> <li>2. ネフローゼ症候群の基礎と病態</li> <li>3. 慢性腎臓病(CKD):病態と栄養管理</li> <li>4. 腎疾患:最新トピックス</li> <li>5. 腎疾患症例演習1</li> <li>6. 腎疾患症例演習2</li> <li>7. 透析症例演習1</li> <li>8. 透析症例演習2</li> <li>9. 糖尿病の基礎と病態1</li> <li>10. 糖尿病の基礎と病態2</li> <li>11. 糖尿病症例演習1</li> <li>12. 糖尿病症例演習2</li> <li>13. 総合演習と討議</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 講義への参加態度、コミュニケーション、プレゼンテーション内容、理解力を評価する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	臨床栄養学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	竹中 優		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ] 食事療法が重要となる各種疾患について、1. 臨床診査・臨床検査・身体計測項目を理解する。2. 食事調査結果と合わせて栄養アセスメントができる。3. 栄養アセスメント結果に基づき、栄養ケアプラン(必要栄養量の算出・献立作成・栄養指導箋等)が作成できる。4. 実際に病院において採用可能な献立を、常食献立から展開し作成できる。5. 食事療法のパンフレットを作成し、患者様の知識・態度・技術に合わせた栄養指導ができる。</p> <p>[ 授業概要 ] 肝硬変(代償期・非代償期)・透析・高齢者等の症例について、疾患の特徴的な臨床診査・臨床検査・身体計測項目を学び、食事調査結果と合わせて栄養アセスメントを行う。栄養アセスメント結果に基づき、栄養ケアプラン(必要栄養量の算出・献立作成・栄養指導箋等)を作成する。献立については、臨床栄養学的見地のみならず、病院における、調理施設・機器・時間・温度・人員・導線、食材費等の配慮も行い、常食献立から展開し、実際に病院において採用可能な献立作成を練習する。また、栄養指導箋に基づき、患者</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 疾患に関するより詳細な知識を文献からあらかじめ収集し、考える。</p> <p>[ 授業計画 ] 1～2. 脂質異常症の栄養アセスメント・栄養ケアプランの作成・栄養指導実習 3～5. 肝硬変の栄養アセスメント・栄養ケアプランの作成・栄養指導実習 6～8. 血液透析 9～11. 腹膜透析 12、13. 高齢者の栄養アセスメントの栄養アセスメントの作成・栄養ケアプラン・栄養指導実習</p> <p>[ 成績評価方法 ] 演習中の発表および症例の栄養ケアプラン・栄養指導資料の内容</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	臨床栄養学特論 I	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	竹中 優		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ] 疾患に関する理解を深め、臨床栄養学的なアプローチを自ら探求し、考えることができる。英語・日本語を問わず up-to date な情報収集法についても学ぶ。</p> <p>[ 授業概要 ] それぞれの疾患に関係する解剖生理学・病理学・生化学的な内容を確認する。 病態を理解し、論理的にかつ臨床栄養学の手法を用いて対応する為に、必要な基本事項を学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 各疾患に関し、病態、病因、治療法、特に栄養療法に関しあらかじめ基本的事項を確認する。特に解剖生理学・病理学・生化学の該当分野を理解しておく事。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 腎臓の解剖生理と病理</li> <li>2. 腎臓病の病態生理</li> <li>3. 慢性腎臓病(CKD)1:病態の理解</li> <li>4. 慢性腎臓病(CKD)2:適切な栄養療法について</li> <li>5. 慢性腎臓病(CKD)3:患者へのアプローチ</li> <li>6. 慢性腎臓病(CKD)4:薬物療法の基礎と実際</li> <li>7. 糖尿病に関する解剖生理・生化学1</li> <li>8. 糖尿病に関する解剖生理・生化学2</li> <li>9. 糖尿病1</li> <li>10. 糖尿病2</li> <li>11. 糖尿病:薬物療法の基礎</li> <li>12. 糖尿病:薬物療法の実際</li> <li>13. 総合討議</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 講義への参加態度、コミュニケーション、プレゼンテーション内容、理解力を課題により評価する</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

# 生活造形学専攻

科目名	家政学研究特別講義a	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	ガンガ 伸子、狩野 百合子、大森 正子、置村 康彦、木村 万里子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  食物栄養学と生活造形学をはじめ、家政学に関する最新の研究成果に触れて、知識を深めること。</p> <p>[ 授業概要 ]  食物栄養学と生活造形学に関わる種々の分野のトピックスを選び、本学・本研究科担当教員および学外の特別講師が分担して講義を行う。この分野は学術的内容と実務的内容、あるいは具体的なモノの製作とそのモノの利用など、複合した状況の中に成立している科学である。各講師の独創的な活動を通して得られた種々の知見を講述する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  種々な事項に興味を持ち、前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]  【遠隔授業一部対面授業】  第5回目の博士論文進捗状況発表会と第6回目の修士論文中間発表会は対面で行う。</p> <p>前期に7～8回程度の特別講義(2時間)を予定している。  実施日については別途通知する。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  提出レポート等により評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	家政学研究特別講義b	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	ガンガ 伸子、中西 正恵、竹中 優、山根 千弘、栗原 伸公、砂本 文彦		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  食物栄養学と生活造形学をはじめ、家政学に関する最新の研究成果に触れて、知識を深めること。</p> <p>[ 授業概要 ]  食物栄養学と生活造形学に関わる種々の分野のトピックスを選び、本学・本研究科担当教員および学外の特別講師が分担して講義を行う。この分野は学術的内容と実務的内容、あるいは具体的なモノの製作とそのモノの利用など、複合した状況の中に成立している科学である。各講師の独創的な活動を通して得られた種々の知見を講述する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  種々な事項に興味を持ち、前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]  7～8回程度の特別講義(2時間)を予定している。  実施日については別途通知する。</p> <p>[ 成績評価方法 ]  提出レポート等により評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	家政教育学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤 佐織		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ]          ・研究論文を読んで内容を理解することができる。          ・研究論文をテーマに即して分析的に読むことができる。</p> <p>[ 授業概要 ]          ・家庭科教育に関する研究論文を読み、研究の目的、課題、方法、扱う資料、内容、結論のまとめ方等について検討する。          ・家庭科教育研究の動向と成果について考察する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]          授業の前に、取り上げる論文を熟読しておく。</p> <p>[ 授業計画 ]          1. 論文を読む:衣生活①          2. 論文を読む:衣生活②          3. 論文を読む:衣生活③          4. 論文を読む:食生活①          5. 論文を読む:食生活②          6. 論文を読む:食生活③          7. 論文を読む:住生活①          8. 論文を読む:住生活②          9. 論文を読む:住生活③          10. 論文を読む:家族と家庭生活①          11. 論文を読む:家族と家庭生活②          12. 論文を読む:家族と家庭生活③          13. 論文を読む:消費生活</p> <p>[ 成績評価方法 ]          授業の準備、発表・討論、レポート等を総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          必要に応じて紹介する</p>			

科目名	家政教育学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤 佐織		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ]  先行研究の内容を十分に理解した上で、独自の視点から課題追究することができる。</p> <p>[ 授業概要 ]  テーマを設定した上で、レポートを作成し、議論を通して課題を明らかにする。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  テーマに関連した先行研究を調べた上で、資料の収集と読み込みをし、授業内で報告できるようにしておく。</p> <p>[ 授業計画 ]  1.家庭科教育研究の視点  2.テーマの設定  3.先行研究の成果と到達点①  4.先行研究の成果と到達点②  5.研究計画  6.資料の収集と分析①  7.資料の収集と分析②  8.結果の考察  9.レポートの構成  10.レポートを書く①  11.レポートを書く②  12.レポートを発表・討論  13.まとめ</p> <p>[ 成績評価方法 ]  研究への取り組み、レポートの内容・発表等により総合的に評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  必要に応じて紹介する</p>			

科目名	家政教育学特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤 佐織		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ] 家庭科教育に関する問題から研究テーマを設定し、修士論文として完成する。</p> <p>[ 授業概要 ] 研究テーマの設定、論文作成の手順、先行研究に関する論文・文献検索の方法、資料の扱い等、修士論文作成にかかわる基本的なことがらを押さえた上で、進捗状況に合わせて論文完成まで指導する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 資料の収集、分析の結果を報告する。</p> <p>[ 授業計画 ] ・テーマに関連する研究論文の収集と分析 ・研究計画にそって問題の解明を進める ・資料の分析・考察を修士論文にまとめる</p> <p>[ 成績評価方法 ] 研究に対する態度、研究成果、論文などを総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	家政教育学特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤 佐織		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ] 家庭科教育に関する問題から研究テーマを設定し、修士論文として完成する。</p> <p>[ 授業概要 ] 研究テーマの設定、論文作成の手順、先行研究に関する論文・文献検索の方法、資料の扱い等、修士論文作成にかかわる基本的なことがらを押さえた上で、進捗状況に合わせて論文完成まで指導する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 資料の収集、分析の結果を報告する。</p> <p>[ 授業計画 ] ・テーマに関連する研究論文の収集と分析 ・研究計画にそって問題の解明を進める ・資料の分析・考察を修士論文にまとめる</p> <p>[ 成績評価方法 ] 研究に対する態度、研究成果、論文などを総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	家政教育学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤 佐織		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家政学が教育を通してどのように普及がはかられるのかを理解している。</li> <li>・家庭科教育や消費者教育などが家政学の本質とどのように関連するのかを理解している。</li> <li>・家庭科教材研究と家庭科教育実践研究を通して、家政教育の今日的意義と家庭科教育の役割について理解している。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>家政学を親学問とし、教科として学校教育に位置づけられている家庭科教育について理解し、生活者教育としての家庭科の意義と役割について考察する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]</p> <p>授業中の疑問点については文献等で調べ解明し、次の授業で報告する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家政学と家庭科教育①</li> <li>2. 家政学と家庭科教育②</li> <li>3. 家政学と家族</li> <li>4. 家政学と生活文化</li> <li>5. 家政学と消費者教育</li> <li>6. 家政学とSDGs①</li> <li>7. 家政学とSDGs②</li> <li>8. 家庭科教材研究①</li> <li>9. 家庭科教材研究②</li> <li>10. 家庭科教材研究③</li> <li>11. 家庭科教育実践研究①</li> <li>12. 家庭科教育実践研修②</li> <li>13. 家庭科教育実践研究③</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]</p> <p>授業への参加態度、レポートなど</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p> <p>必要に応じて紹介する</p>			

科目名	住生活文化学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	砂本 文彦		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 生活造形(生活用品、住居、公共空間、都市)を成立させる機能と形態についての関係性について、学術的なレビューに基づいた説明ができる。</p> <p>[ 授業概要 ] 生活造形(生活用品、住居、公共空間、都市)を成立させる機能と形態についての関係性について考察するために、関連研究の文献調査を繰り返し行い、学術分野の到達点と課題について理解する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 大学院生とはいえ一人の研究者として自覚を持ち、客観的な調査・考察に基づいた研究活動が行えるよう、日々関心の幅を広げておくこと。各回、予習復習合わせて2時間程度します。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活文化と生活造形にかかる文献調査①</li> <li>2. 生活文化と生活造形にかかる文献調査②</li> <li>3. 生活文化と生活造形にかかる研究レビュー</li> <li>4. 生活用品と生活造形にかかる文献調査①</li> <li>5. 生活用品と生活造形にかかる文献調査②</li> <li>6. 生活用品と生活造形にかかる研究レビュー③</li> <li>7. 住居と生活造形にかかる文献調査①</li> <li>8. 住居と生活造形にかかる文献調査②</li> <li>9. 住居と生活造形にかかる研究レビュー</li> <li>10. 公共空間と生活造形にかかる文献調査①</li> <li>11. 公共空間と生活造形にかかる文献調査②</li> <li>12. 公共空間と生活造形にかかる研究レビュー</li> <li>13. 住生活文化学のまとめ</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] レビュー作業説明の的確さによる総合評価 フィードバックは適宜行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	住生活文化学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	砂本 文彦		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 生活造形(生活用品、住居、公共空間、都市)を成立させる機能と形態についての関係性について学術的な研究成果をまとめ、学会発表などを行える。</p> <p>[ 授業概要 ] 生活造形(生活用品、住居、公共空間、都市)を成立させる機能と形態についての関係性について考察するために、自身のテーマ設定による文献調査・現地調査を行い、レポートとしてまとめる。また、学会発表へのあしがかりとするための整理考察を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 大学院生とはいえ一人の研究者として自覚を持ち、客観的な調査・考察に基づいた研究活動が行えるよう、日々関心の幅を広げておくこと。各回、予習復習合わせて2時間程度します。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究の調査①</li> <li>2. 先行研究の調査②</li> <li>3. 論文輪読①</li> <li>4. 論文輪読②</li> <li>5. 論文輪読③</li> <li>6. テーマ設定①</li> <li>7. 文献調査①</li> <li>8. 文献調査②</li> <li>9. 現地調査①</li> <li>10. 現地調査②</li> <li>11. 論文執筆①</li> <li>12. 論文執筆②</li> <li>13. 論文執筆③</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 学会発表などの成果物に基づく総合評価 フィードバックは適宜実施します</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	住生活文化学特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	砂本 文彦		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 生活文化がかたちとなってあらわれる住生活の形態と機能について、体系的に理解し、個別事例についても分析に基づいた考察ができる。</p> <p>[ 授業概要 ] 生活造形にかかる住空間の形態と機能の関係構造について、その歴史的背景や社会的効用を体系的に考察し、学術成果としてまとめていく。また、個別事例(生活用品、住居、公共空間、都市)についても科学的な分析が行えるように、課題、調査、発表を通じて体得し、調査成果を学会発表する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 住いにかかわる生活文化関文献に常日頃から目を通しておくようにしておく。調査の計画や結果は、随時報告すること。また、報告の際は必ずレジュメを作成し、記録を残し、記録集として保存していくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究の調査①</li> <li>2. 先行研究の調査②</li> <li>3. 論文輪読①</li> <li>4. 論文輪読②</li> <li>5. 論文輪読③</li> <li>6. テーマ設定・予備調査①</li> <li>7. 文献調査・調査計画①</li> <li>8. 文献調査・調査計画②</li> <li>9. 予備調査・現地調査①</li> <li>10. 予備調査・現地調査②</li> <li>11. 論文執筆①</li> <li>12. 論文執筆②</li> <li>13. 論文執筆③</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 分析と考察の成果物を総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	住生活文化学特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	砂本 文彦		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 生活文化がかたちとなってあらわれる住生活の形態と機能について、体系的に理解し、個別事例についても分析に基づいた考察ができる。またその成果を論文として表現できる。</p> <p>[ 授業概要 ] 生活造形にかかる住空間の形態と機能の関係構造について、その歴史的背景や社会的効用を体系的に考察し、学術成果としてまとめていく。また、個別事例(生活用品、住居、公共空間、都市)についても科学的な分析が行えるように、課題、調査、発表を通じて体得し、調査成果を学会発表する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 住いにかかわる生活文化関文献に常日頃から目を通しておくようにしておく。調査の計画や結果は、随時報告すること。また、報告の際は必ずレジュメを作成し、記録を残し、記録集として保存していくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究の調査①</li> <li>2. 先行研究の調査②</li> <li>3. 論文輪読①</li> <li>4. 論文輪読②</li> <li>5. 論文輪読③</li> <li>6. テーマ設定・予備調査①</li> <li>7. 文献調査・調査計画①</li> <li>8. 文献調査・調査計画②</li> <li>9. 予備調査・現地調査①</li> <li>10. 予備調査・現地調査②</li> <li>11. 論文執筆①</li> <li>12. 論文執筆②</li> <li>13. 論文執筆③</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 分析と考察の成果物、論文の成果物を総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	住生活文化学特論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	砂本 文彦		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 生活文化の器であるすまいのかたちについて、体系的に理解し、個別事例についても分析、考察ができる。</p> <p>[ 授業概要 ] 生活造形にかかる形態と機能の関係構造について、その歴史的背景や社会的効用を体系的に考察していく。また、個別事例(生活用品、住居、公共空間、都市)についても科学的な分析が行えるように、課題、調査、発表を通じて体得する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 生活造形を成立させる形態と機能の関係について、常日頃から関心を払っておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度します。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活文化と生活造形、その歴史的展開</li> <li>2. 生活文化と生活造形、その社会的効用</li> <li>3. 生活文化と生活造形、事例と課題調査</li> <li>4. 生活用品と生活造形、その歴史的展開</li> <li>5. 生活用品と生活造形、その社会的効用</li> <li>6. 生活用品と生活造形、事例と課題調査</li> <li>7. 住居と生活造形、その歴史的展開</li> <li>8. 住居と生活造形、その社会的効用</li> <li>9. 住居と生活造形、事例と課題調査</li> <li>10. 公共空間と生活造形、その歴史的展開</li> <li>11. 公共空間と生活造形、その社会的効用</li> <li>12. 公共空間と生活造形、事例と課題調査</li> <li>13. 住生活文化学のまとめ</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 提出物と試験などによる総合評価。 フィードバックは適宜実施します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	生活経営学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	ガンガ 伸子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 生活経営に関する研究論文や報告書を読んで理解すること。 生活経済に関する分析手法を身につけること。</p> <p>[ 授業概要 ] 生活経営学特論の内容に基づき、生活経営・生活経済に関する文献研究および統計資料の解析を行う。次に、生活経営をめぐる経済社会環境との関係について、家庭の経済管理における課題と対応について理解を深めていく。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 家計・家族に関する白書や報告書をよく読んで、生活経営に関する課題は何かを考えておくこと。 各回の授業についての予習・復習4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献購読①(家計・家族)</li> <li>2. 文献購読②(家計・家族)</li> <li>3. 家計構造の分析と考察(家計構造の変遷①)</li> <li>4. 家計構造の分析と考察(家計構造の変遷②)</li> <li>5. 家計構造の分析と考察(家計構造の変遷③)</li> <li>6. 家計構造の分析と考察(所得)</li> <li>7. 家計構造の分析と考察(消費支出)</li> <li>8. 家計構造の分析と考察(貯蓄)</li> <li>9. 家計構造の分析と考察(ライフサイクル)</li> <li>10. 家計構造の分析と考察(単身者)</li> <li>11. 家計構造の分析と考察(高齢世帯)</li> <li>12. 家計構造の分析と考察(地域)(職業)</li> <li>13. まとめ、プレゼンテーション</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 授業への取り組み、課題、レポート等を総合的に評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし。別途プリント配布。著者名:なし。出版社:なし。(なし。)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし。著者名:なし。(なし。)</p>			

科目名	生活経営学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	ガンガ 伸子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  家計・個人の経済活動に焦点をあてて、生活の営みを理解すること。  生活経営学の諸問題解決に実践的に取り組む能力を習得すること。</p> <p>[ 授業概要 ]  本授業は、生活経営の諸問題を発見し、実践的に問題解決する能力を身につけることを目標とする。各種の統計資料等から家計・家族に関するデータを収集し、資料分析を行う。また、生活経営学の分析手法としてよく用いられる計量経済学の手法について学習しながら、生活経営の解析技法の習得をめざす。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  生活経営学の分析手法に関心をもって、文献検索等を行うこと。また、実際にモデル設定をし、推計できるようコンピュータの技術習得にも努めること。  毎回の授業についての予習・復習5時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]  1.生活経営を取り巻く諸問題  2.生活経営の評価方法①  3.生活経営の評価方法②  4.生活経営学の分析手法①(変化率・寄与度、寄与率)  5.生活経営学の分析手法②(相関分析)  6.生活経営学の分析手法③(相関分析)  7.生活経営学の分析手法④(単回帰モデル)  8.生活経営学の分析手法⑤(単回帰モデル)  9.生活経営学の分析手法⑥(重回帰モデル)  10.生活経営学の分析手法⑦(重回帰モデル)  11.生活経営学の分析手法⑧(重回帰モデル)  12.生活経営学の分析手法⑨(ダミー変数)  13.まとめ、プレゼンテーション</p> <p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み、課題、レポート等を総合的に評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  なし。別途プリント配布。著者名:なし。出版社:なし。</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  『初歩からの計量経済学』 著者名:白砂堤津耶 出版社:日本評論社</p>			

科目名	生活経営学特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	ガンガ 伸子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 生活経営学に関する問題から研究テーマを設定し、修士論文として完成させる。</p> <p>[ 授業概要 ] 研究テーマの設定、論文作成の手順、先行研究に関する論文・文献検索の方法、資料・データの収集方法、データ解析、分析手法の習得等、修士論文作成にかかわる基本的なことがらを押さえた上で論文完成をめざす。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 先行研究の論文を読んでおくこと。 分析手法の習得に努めること。 各回の授業についての予習・復習4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活経営学に関する研究テーマの設定①</li> <li>2. 生活経営学に関する研究テーマの設定②</li> <li>3. 先行研究のサーベイ①</li> <li>4. 先行研究のサーベイ②</li> <li>5. 研究背景の整理①</li> <li>6. 研究背景の整理②</li> <li>7. 分析手法の検討①</li> <li>8. 分析手法の検討②</li> <li>9. 分析手法の検討③</li> <li>10. 分析結果の考察①</li> <li>11. 分析結果の考察②</li> <li>12. 分析結果の考察③</li> <li>13. 修士論文のまとめ、プレゼンテーション</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 研究への取り組み状況、修士論文等を総合的に評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし。別途プリント配布。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	生活経営学特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	ガンガ 伸子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 生活経営学に関する問題から研究テーマを設定し、修士論文として完成させる。</p> <p>[ 授業概要 ] 研究テーマの設定、論文作成の手順、先行研究に関する論文・文献検索の方法、資料・データの収集方法、データ解析、分析手法の習得等、修士論文作成にかかわる基本的なことがらを押さえた上で論文完成をめざす。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 先行研究の論文を読んでおくこと。 分析手法の習得に努めること。 各回の授業についての予習・復習4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活経営学に関する研究テーマの設定①</li> <li>2. 生活経営学に関する研究テーマの設定②</li> <li>3. 先行研究のサーベイ①</li> <li>4. 先行研究のサーベイ②</li> <li>5. 研究背景の整理①</li> <li>6. 研究背景の整理②</li> <li>7. 分析手法の検討①</li> <li>8. 分析手法の検討②</li> <li>9. 分析手法の検討③</li> <li>10. 分析結果の考察①</li> <li>11. 分析結果の考察②</li> <li>12. 分析結果の考察③</li> <li>13. 修士論文のまとめ、プレゼンテーション</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 研究への取り組み状況、修士論文等を総合的に評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし。別途プリント配布。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	生活経営学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	ガンガ 伸子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  家計・個人の経済活動に焦点をあてて、生活の営みを理解すること。  これからの経済社会の変化に対応した生活経営のあり方について考察すること。</p> <p>[ 授業概要 ]  本授業では、家計・個人の経済活動に焦点をあてて、生活の営み(マネジメント)の実態と課題について、資料分析を取り入れながら考察していく。はじめに、家計の構造(収入、支出、貯蓄)を理解し、次に、近年増加傾向にある高齢世帯や単身世帯の特徴や課題を考察する。さらに、ライフサイクル的視点から家計をとらえ、自らがリスクマネジメントや生活設計を考えることができる応用力の習得をめざす。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  家計・家族に関する白書や報告書をよく読んで、生活経営に関する課題は何かを考えておくこと。  予習・復習4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会と生活経営、家族と生活経営の変遷</li> <li>2. 生活経済と生活経営(家計・生活経済・国民経済)</li> <li>3. 現代家計の構造と特徴①(生活経営と家計)</li> <li>4. 現代家計の構造と特徴②(家計費の構造)</li> <li>5. 現代家計の構造と特徴③(家計収支の変化)</li> <li>6. 現代家計の構造と特徴④(貯蓄)</li> <li>7. 現代家計の構造と特徴⑤(個計と家計)</li> <li>8. 現代家計の構造と特徴⑥(高齢世帯)</li> <li>9. 現代家計の構造と特徴⑦(単身世帯)</li> <li>10. 現代家計の構造と特徴⑧(ライフサイクル)</li> <li>11. リスクと生活設計</li> <li>12. 変わる経済社会と消費者</li> <li>13. これからの生活経済と生活経営、まとめ</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み、課題、レポート等を総合的に評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  なし。別途プリント配布。 著者名:なし。 出版社:なし。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)</p>			

科目名	生活造形材料学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山根 千弘		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 生活造形材料学領域に関する課題を見出し、解決する方法論を見出すこと。 演習aではこのうち特に課題の設定能力、調査能力を身につけることを目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ] 生活造形材料学特論の授業内容を基に、繊維材料の構造や物性に関して討議をおこない、関心を持つ学修テーマ(領域)を、受講者各自が設定する。そして、それぞれの学修テーマに沿って、関連する国内外の教科書・研究資料を収集し、講読・議論する。そして当該学修テーマについて、その背景、課題、争点・論点などを整理・分析する。関連資料の収集については、最新のデータベースの取り扱いについても指導する。 設定学修テーマに係る素材としては、今後の社会ニーズに沿った循環型の素材、例えばセルロースやキッチンなどの天然高分子材料、あるいはポリ乳酸などの天然物由来の材料を中心とする。このように生活科学を考える上で基盤となる「材料」を学修することは、将来の家庭科教育者としても重要なことである。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 生活造形材料学特論の授業を基に行われる授業なので当該授業の復習が必要。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学修テーマの設定①</li> <li>2. 学修テーマの設定②</li> <li>3. 学修テーマの設定③</li> <li>4. 学修テーマの設定④</li> <li>5. 資料収集の方法論①</li> <li>6. 資料収集の方法論②</li> <li>7. 資料収集の方法論③</li> <li>8. 資料収集の方法論④</li> <li>9. 国内外の学修資料の収集と輪読①</li> <li>10. 国内外の学修資料の収集と輪読②</li> <li>11. 国内外の学修資料の収集と輪読③</li> <li>12. 国内外の学修資料の収集と輪読④</li> <li>13. 発表</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] レポートなど</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 適宜指示する(該当しない)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜指示する(該当しない)</p>			

科目名	生活造形材料学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山根 千弘		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  生活造形材料学特論と生活造形材料学演習aの授業を基に、当該領域に関する課題を見出し、解決する方法論を見出すこと。  演習bではこのうち特に課題の解析能力と対処(問題解決)能力、発表を通してのプレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ]  生活造形材料学特論の授業内容を基に、繊維材料の構造や物性に関して討議をおこない、関心を持つ学修テーマ(領域)を、受講者各自が設定する。そして、それぞれの学修テーマに沿って、関連する国内外の教科書・研究資料を講読・議論し、最終的には当該学修テーマについて背景、課題、争点・論点などを受講者が主体的に整理・分析し、全体像をまとめあげる。関連資料の収集については、最新のデータベースの取り扱いについても指導する。設定学修テーマに係る素材としては、今後の社会ニーズに沿った循環型の素材、例えばセルロースやキチンなどの天然高分子材料、あるいはポリ乳酸などの天然物由来の材料を中心とする。このように生活科学を考える上で基盤となる「材料」を学修することは、将来の家庭科教育者としても重要なことである。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  生活造形材料学特論の内容を基に授業を進めるので、この復習をすることが好ましい。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学修テーマの設定①</li> <li>2. 学修テーマの設定②</li> <li>3. 学修テーマの設定③</li> <li>4. 学修テーマの設定④</li> <li>5. 学修資料の講読①</li> <li>6. 学修資料の講読②</li> <li>7. 学修資料の講読③</li> <li>8. 学修テーマの整理、分析①</li> <li>9. 学修テーマの整理、分析②</li> <li>10. 学修テーマの整理、分析③</li> <li>11. 学修テーマの整理、分析④</li> <li>12. 学修テーマの整理、分析⑤</li> <li>13. 発表</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]  レポートなど</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  配布資料 (該当しない)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  配布資料 (該当しない)</p>			

科目名	生活造形材料学特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	山根 千弘		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] セルロースやキチンなどの天然高分子に関する最新の研究を実践することによって、研究の進め方だけにとどまらず、問題解決の方法論を修得する。その中で、特別研究aでは先行研究の調査を行い、当該研究領域の課題を抽出し、独自にテーマ設定する能力を修得することが目標である。			
[ 授業概要 ] セルロースやキチン、特に再生セルロースやセルロース誘導体の先行研究を調査し、当該研究領域の範囲を明確化させる。すなわち分かっていることと、分かっていないことの境界線をはっきりさせる。素材として、バイオマス関連素材を扱うので、現在の社会的課題、特に合成高分子の廃棄などに関する環境問題についても学ぶ。先行研究の調査で見出した範囲(学術的価値)と社会ニーズ(社会的価値)を検討して、研究テーマの設定を行う。並行して、当該テーマに沿って予備的検討(実験)を行い、実験のPDCAサイクルを廻す。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 実験の計画や、結果は随時報告すること。			
[ 授業計画 ] ・これまでの関連する研究論文、最近の研究情報の紹介および収集 ・予備実験、方法などの検討 ・実験計画、本実験、データ処理、考察、論文まとめ			
[ 成績評価方法 ] 研究に対する態度、研究成果、論文などを総合して評価する。			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書 (ISBN) ] なし			
[ 参考書 (ISBN) ] なし			

科目名	生活造形材料学特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	山根 千弘		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] セルロースやキチンなどの天然高分子に関する最新の研究を実践することによって、研究の進め方だけにとどまらず、問題解決の方法論を修得する。その中で、特別研究bでは、特別研究aの目標である、先行研究の調査を行い、当該研究領域の課題を抽出し、独自にテーマ設定することに加えて、研究実行能力を修得することである。すなわち研究方法に独自の工夫を加え、価値のある新たな事実を見出し、それを当該研究分野の中に位置づけ、論文等で発表する能力を身につけることである。</p> <p>[ 授業概要 ] 特別研究aで設定した研究テーマを実践する。実践にあたっては、研究のPDCAサイクルを廻すように指導する。これは研究の方法論の修得だけでなく、あらゆる課題解決のためにも極めて重要なものとする。その中で、研究(実験)方法の工夫、異常データの取り扱い、結果の解釈やまとめ方(考察)を学ぶ。また論文執筆や学会などをおとしたプレゼンテーションなども行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 実験の計画や、結果は随時報告すること。</p> <p>[ 授業計画 ] ・これまでの関連する研究論文、最近の研究情報の紹介および収集 ・予備実験、方法などの検討 ・実験計画、本実験、データ処理、考察、論文まとめ</p> <p>[ 成績評価方法 ] 研究に対する態度、研究成果、論文などを総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	生活造形材料学特論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山根 千弘		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 被服やインテリアなどの材料を通して材料全般を学修し、材料(主に被服やインテリア材料)設計の考え方を身につけること。			
[ 授業概要 ] 材料は生活造形を考える上での基盤となるものである。例えば被服素材の強さ、暖かさ、ドレープ感あるいはインテリア素材の輝き、硬さ、質感などの性質は材料の特性に大きく影響を受ける。本講では、さまざまな材料の特性がいかに発現し、どのように最終的な「造形物」の性質に寄与しているのかを学修する。対象とする材料は基本的に生活造形全般に係るものを扱うが、特に被服材料、インテリア材料、建築材料の主要構成成分である高分子材料を中心的に取り扱う。さらに、将来にわたる望ましい生活造形材料についての議論もおこなう。このように生活科学を考える上で基盤となる「材料」を学修することは、将来の家庭科教育者としても重要なことである。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 生活材料学、生活科学基礎実験、繊維材料学、繊維材料学実験などの内容を基に授業を進めるので、これらの授業の復習をすることが好ましい。			
[ 授業計画 ]			
1. 生活造形材料の特性発現①			
2. 生活造形材料の特性発現②			
3. 生活造形材料の特性発現③			
4. 合成高分子材料①			
5. 合成高分子材料②			
6. 合成高分子材料③			
7. 生分解生合成高分子材料①			
8. 生分解生合成高分子材料②			
9. 生分解生合成高分子材料③			
10. 天然高分子材料(セルロース系、キチン・キトサン系)①			
11. 天然高分子材料(セルロース系、キチン・キトサン系)②			
12. 天然高分子材料(セルロース系、キチン・キトサン系)③			
13. まとめ			
[ 成績評価方法 ] レポートなど			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ] 配布資料 (該当しない)			
[ 参考書(ISBN) ] 配布資料 (該当しない)			

科目名	地域居住学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	梶木 典子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  受講者各自が、研究テーマを選定し、それにふさわしい研究方法を検討し、研究を進める。多くの参考文献や資料を輪読することで、多面的に現状や問題点を理解する視点を身につけることとする。</p> <p>[ 授業概要 ]  私たちの暮らしを取り巻く諸問題のなかから、人間の行動と環境の関わりが大きく関与する研究を取り上げ、関連する国内外の文献や資料を講読し、その内容について議論を行う。受講者各自がテーマを抽出し、必要であれば参考となる事例の現地見学を行う。そして、テーマに基づいて、調査を実施し、結果を分析・考察する。これらの成果をまとめ、結果を発表する。なお、本演習の内容は、人間の行動と空間を密接に考察する内容であるため、中学校や高等学校の教員を目指す学生にとって実践的で有用であると考えられる。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  各回の授業についての予習・復習4時間程度。  より多くの参考文献を読んで、多様な研究について、研究方法や論文としてのまとめ方を学んでおくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域居住学に関する今日的課題①</li> <li>2. 地域居住学に関する今日的課題②</li> <li>3. 地域居住学に関する研究論文の講読と議論①</li> <li>4. 地域居住学に関する研究論文の講読と議論②</li> <li>5. 研究テーマの抽出、研究方法の検討、研究計画の作成①</li> <li>6. 研究テーマの抽出、研究方法の検討、研究計画の作成②</li> <li>7. 予備調査、見学等①</li> <li>8. 予備調査、見学等②</li> <li>9. 本調査の実施、分析、考察①</li> <li>10. 本調査の実施、分析、考察②</li> <li>11. 本調査の実施、分析、考察③</li> <li>12. 本調査の実施、分析、考察④</li> <li>13. 研究成果の発表</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]  研究成果(90%)、発表の状況(10%)などを総合的に評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  適宜提示する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  なし</p>			

科目名	地域居住学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	梶木 典子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  受講者各自が、研究テーマを選定し、それにふさわしい研究方法を検討し、研究を進める。多くの参考文献や資料を輪読することで、多面的に現状や問題点を理解する視点を身につけることとする。</p> <p>[ 授業概要 ]  私たちの暮らしを取り巻く諸問題のなかから、人間の行動と環境の関わりが大きく関与する研究を取り上げ、関連する国内外の文献や資料を講読し、その内容について議論を行う。受講者各自がテーマを抽出し、必要であれば参考となる事例の現地見学を行う。そして、テーマに基づいて、調査を実施し、結果を分析・考察する。これらの成果をまとめ、結果を発表する。なお、本演習の内容は、人間の行動と空間を密接に考察する内容であるため、中学校や高等学校の教員を目指す学生にとって実践的で有用であると考えられる。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  各回の授業についての予習・復習4時間程度。  より多くの参考文献を読んで、多様な研究について、研究方法や論文としてのまとめ方を学んでおくこと。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域居住学に関する今日的課題①</li> <li>2. 地域居住学に関する今日的課題②</li> <li>3. 地域居住学に関する研究論文の講読と議論①</li> <li>4. 地域居住学に関する研究論文の講読と議論②</li> <li>5. 研究テーマの抽出、研究方法の検討、研究計画の作成①</li> <li>6. 研究テーマの抽出、研究方法の検討、研究計画の作成②</li> <li>7. 予備調査、見学等①</li> <li>8. 予備調査、見学等②</li> <li>9. 本調査の実施、分析、考察①</li> <li>10. 本調査の実施、分析、考察②</li> <li>11. 本調査の実施、分析、考察③</li> <li>12. 本調査の実施、分析、考察④</li> <li>13. 研究成果の発表</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]  研究成果(90%)、発表の状況(10%)などを総合的に評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  適宜提示する。</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  なし</p>			

科目名	地域居住学特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	梶木 典子		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ] 地域社会が持つ資源と潜在力をもとに行われるまちづくりは、基本的には居住環境の改善をはかることを目的とした活動である。これらの活動を対象として、その方法と理論をもとに具体的方法を明確にする研究を行い、自律する地域社会の新しいしくみづくりに資する有益な基礎的資料を得ることを目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ] 少子高齢化の進展により、物を新たに作るだけではなく、既存のストックを成熟させ、循環させ、持続させることが社会の大きな目標となっている。また、成熟社会の価値観やライフスタイルは極めて多様化し、人々はまちづくりや地域づくりそのものに価値を見いだしてきている。国内外の多様なまちづくりの事例から、その制度や仕組みについて理解し、まちづくりに必要なノウハウや実践方法について検討を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 調査やフィールドワークの計画や、結果は随時報告すること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの関連する研究論文、最近の研究情報の紹介および収集①</li> <li>2. これまでの関連する研究論文、最近の研究情報の紹介および収集②</li> <li>3. これまでの関連する研究論文、最近の研究情報の紹介および収集③</li> <li>4. 研究対象に対する調査方法の検討①</li> <li>5. 研究対象に対する調査方法の検討②</li> <li>6. 研究対象に対する調査方法の検討③</li> <li>7. 調査結果の分析、考察、論文まとめ①</li> <li>8. 調査結果の分析、考察、論文まとめ②</li> <li>9. 調査結果の分析、考察、論文まとめ③</li> <li>10. 調査結果の分析、考察、論文まとめ④</li> <li>11. 調査結果の分析、考察、論文まとめ⑤</li> <li>12. 調査結果の分析、考察、論文まとめ⑥</li> <li>13. 調査結果の分析、考察、論文まとめ⑦</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 研究に対する態度、研究成果、論文などを総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] なし</p>			

科目名	地域居住学特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	梶木 典子		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ] 地域社会が持つ資源と潜在力をもとに行われるまちづくりは、基本的には居住環境の改善をはかることを目的とした活動である。これらの活動を対象として、その方法と理論をもとに具体的方法を明確にする研究を行い、自律する地域社会の新しいしくみづくりに資する有益な基礎的資料を得ることを目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ] 少子高齢化の進展により、物を新たに作るだけではなく、既存のストックを成熟させ、循環させ、持続させることが社会の大きな目標となっている。また、成熟社会の価値観やライフスタイルは極めて多様化し、人々はまちづくりや地域づくりそのものに価値を見いだしてきている。 国内外の多様なまちづくりの事例から、その制度や仕組みについて理解し、まちづくりに必要なノウハウや実践方法について検討を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 調査やフィールドワークの計画や、結果は随時報告すること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの関連する研究論文、最近の研究情報の紹介および収集①</li> <li>2. これまでの関連する研究論文、最近の研究情報の紹介および収集②</li> <li>3. これまでの関連する研究論文、最近の研究情報の紹介および収集③</li> <li>4. 研究対象に対する調査方法の検討①</li> <li>5. 研究対象に対する調査方法の検討②</li> <li>6. 研究対象に対する調査方法の検討③</li> <li>7. 調査結果の分析、考察、論文まとめ①</li> <li>8. 調査結果の分析、考察、論文まとめ②</li> <li>9. 調査結果の分析、考察、論文まとめ③</li> <li>10. 調査結果の分析、考察、論文まとめ④</li> <li>11. 調査結果の分析、考察、論文まとめ⑤</li> <li>12. 調査結果の分析、考察、論文まとめ⑥</li> <li>13. 調査結果の分析、考察、論文まとめ⑦</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 研究に対する態度、研究成果、論文などを総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	地域居住学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	梶木 典子		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 人々が暮らす住まいと地域を対象とし、それらが抱える様々な課題について考察し、良好なコミュニティ形成につながるまちづくりについて基本的な知見を習得する。			
[ 授業概要 ] 生活者の視点にたち、地域が抱える課題についてデータを用いて講述し、各地で取り組まれている解決策となるまちづくりの実践を紹介し、参画によるコミュニティづくりが地域社会に果たす役割について論じる。 なお、本講義の内容は、私たちの暮らしに広く関わる内容を含んでいるため、中学校や高等学校の教員を目指す学生にとっては有用である。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 各回の授業についての予習・復習4時間程度。 生活に関わる様々な事象に関心を持つ習慣を身につけること。そして、多様な文献を検索できる能力を身につけていることと、それらをまとめ発表できるようになっているように準備しておくこと。			
[ 授業計画 ] 1. 地域における課題をデータで読み解く1 2. 地域における課題をデータで読み解く2 3. 地域における課題をデータで読み解く3 4. 地域における課題をデータで読み解く4 5. 地域課題に向き合う実践1 6. 地域課題に向き合う実践2 7. 地域課題に向き合う実践3 8. 地域課題に向き合う実践4 9. 参画によるまちづくり1 10. 参画によるまちづくり2 11. 参画によるまちづくり3 12. 参画によるまちづくり4 13. 参画によるまちづくり5、総括			
[ 成績評価方法 ] 授業で議論内容(40%)、レポート(60%)を総合的に評価する。			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書 (ISBN) ] アメリカ大都市の死と生 著者名:ジェーン・ジェイコブズ 出版社:鹿島出版会 (4306072746)			
[ 参考書 (ISBN) ] なし			

科目名	人間工学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	大森 正子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 人間工学の実践に必要な人間工学の原理、人間特性・環境特性とその測定法、応用と評価法を修得するとともに、人間工学を実践できるようになることを目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ] 人間工学とは、人間の使いやすさ、操作しやすさ、見やすさ、わかりやすさ、安全、エラーの起こりにくさなどを最終目標・設計目標としており、人間の生理的特性、心理的特性、形態的特性の3大特性を総合的に考慮し、機械・環境と人間の適合を測れるようなシステム、すなわち人間－機械系を設計するヒューマン・インタフェースに係る学問分野である。人間の感性に訴えるような製品設計を行おうとすると、人間の情動系の働きや、認知情報処理特性と切り離して考えることはできない。また、学習、記憶、推論などのさらに高次の認知系についても理解することは重要である。そこで、本講義では、認知的側面に重点を置いた研究について、測定方法を概説するとともに、知覚特性、注意、意思決定など応用事例を交えて、人間工学の応用技術・方法論を解説する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 人間工学に関わる文献を読む。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間工学とは</li> <li>2. 人間工学とデザイン</li> <li>3. 人間中心設計とユニバーサルデザイン</li> <li>4. 反応を測る(反応時間)</li> <li>5. 眼の働き・反応を測る</li> <li>6. 脳の働き・反応を測る</li> <li>7. 疲労・作業能率を測る</li> <li>8. 官能検査と人間の感覚特性</li> <li>9. 環境を測る(光環境)</li> <li>10. 応用事例①メンタル・モデルを考慮した設計</li> <li>11. 応用事例②視覚化による情報伝達</li> <li>12. 応用事例③VDT作業評価</li> <li>13. まとめ</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] レポート(50%)及び授業への参加・取り組み状況(50%)を総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 講義時に紹介(講義時に紹介)</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 生理心理学 第2版 脳のはたらきから見た心の世界 著者名:岡田隆 出版社:サイエンス社 (978-4-7819-1358-2)</p>			

科目名	人間工学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	大森 正子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 人間工学を用いた研究および発表を行う際に必要な知識を修得する。また、人間工学の手法を具体的に理解する。</p> <p>[ 授業概要 ] 人間工学の授業を基に、研究を行う際に必要な、研究方法の選択、実験計画の方法、統計、結果のまとめ方、プレゼンテーションの仕方など基礎的知識を身につけるため、事例を取り上げながら解説するとともに、実際に演習を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 人間工学に関わる文献を読み、人間工学に関わる手法を理解する。</p> <p>[ 授業計画 ] 1～2. 実験計画と実施上の注意点 3～7. 官能評価法 8～11. 他覚的評価法 12～13. 総合演習とまとめ</p> <p>[ 成績評価方法 ] レポート・授業への参加・取り組み状況。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 講義内で指示する</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 授業時に紹介 (講義時に紹介)</p>			

科目名	人間工学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	大森 正子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  社会において人間工学がどのように用いられているか、および、人間工学に関わる隣接した学問分野にはどのような学問があるのかについて、国内外の著書および研究論文を輪読することで、その歴史と現状、問題点などを理解する。人間を取り囲む様々なモノから人間工学的課題を発見し、解決する能力を養い、各自の研究に反映させることを目指す。</p> <p>[ 授業概要 ]  人間工学の研究は日常生活の中から問題が始まり、ストレス、疲労、ヒューマン・エラーの問題など様々なものが存在しており、現代社会の複雑化とともに、そこで扱われる問題も多様化してきている。誰もが、日常生活を安全で快適に過ごすためには、人間工学と隣接分野についての関係性を理解する。受講者は、興味のある論文を選び、その論文に関連した基礎知識を調べ、その背景、課題、研究方法、評価方法についてまとめ、わかりやすく解説するとともに発表を行う。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておく。</p> <p>[ 授業計画 ]  1. 人間工学とは  2-3. 人間工学と情報科学について  4-5. 人間工学と認知科学について  6-7. 人間工学と社会医学について  8-9. 人間工学と労働科学について  10-11. 人間工学と工業デザインについて  12-13. まとめ</p> <p>[ 成績評価方法 ]  レポート・発表内容および授業への参加・取り組み状況。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  講義時に紹介  (講義時に紹介  )</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  講義時に紹介  (講義時に紹介  )</p>			

科目名	人間工学特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	大森 正子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 日常生活の中から人間工学に関わる問題について、自ら研究テーマの設定を行い、研究の方法論を身につけるとともに、社会に役立つ新たな知見を得られる研究を目指す。</p> <p>[ 授業概要 ] 急速な高齢化にともない、高齢者の視覚特性を考慮した快適な視環境整備は重要な課題である。視覚機能と視認性について研究、または、人間工学にかかわる研究で、社会に貢献できる新しい知見や基礎的データの蓄積ができる研究を行う。テーマ設定と関連文献調査後、実験・分析・解析方法を決定し、実際に実験を行う。人間工学実験を通し、測定技術と分析方法、得られたデータの解析手法を理解する。これらは、受講者自身が主体的に研究計画を立て行うものであり、先行研究との検討を十分おこなうことにより、洞察力と実験遂行能力を身につけるものである。教員は、それぞれの段階で適切な指導助言を行いながら論文作成を目指す。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 人間工学研究に関する様々な論文を読み、理解する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1回生 人間工学に関する研究テーマの設定 実験方法、解析方法の確定、予備調査・実験 データの解析、考察、まとめ、中間報告</p> <p>2回生 本実験の遂行 データ解析、考察、まとめ、報告</p> <p>[ 成績評価方法 ] 研究取り組み状況、修士論文により総合的に評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし 別途資料を配布します。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	人間工学特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	大森 正子		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 日常生活の中から人間工学に関わる問題について、自ら研究テーマの設定を行い、研究の方法論を身につけるとともに、社会に役立つ新たな知見を得られる研究を目指す。			
[ 授業概要 ] 急速な高齢化にともない、高齢者の視覚特性を考慮した快適な視環境整備は重要な課題である。視覚機能と視認性について研究、または、人間工学にかかわる研究で、社会に貢献できる新しい知見や基礎的データの蓄積ができる研究を行う。テーマ設定と関連文献調査後、実験・分析・解析方法を決定し、実際に実験を行う。人間工学実験を通し、測定技術と分析方法、得られたデータの解析手法を理解する。これらは、受講者自身が主体的に研究計画を立て行うものであり、先行研究との検討を十分おこなうことにより、洞察力と実験遂行能力を身につけるものである。教員は、それぞれの段階で適切な指導助言を行いながら論文作成を目指す。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 人間工学研究に関する様々な論文を読み、理解する。			
[ 授業計画 ]			
1回生 人間工学に関する研究テーマの設定 実験方法、解析方法の確定、予備調査・実験 データの解析、考察、まとめ、中間報告			
2回生 本実験の遂行 データ解析、考察、まとめ、報告			
[ 成績評価方法 ] 研究取り組み状況、修士論文により総合的に評価する。			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ] なし 別途資料を配布します。			
[ 参考書(ISBN) ] なし			

科目名	被服造形学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中西 正恵		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 被服材料の特性、人体と被服との関係、被服の構造、パターン設計、縫製、消費性能などの研究資料の購読や実物を見ることを通して、材料設計やアパレル製品設計についての理解や視野を広げる。			
[ 授業概要 ] 被服材料の力学・表面特性、熱・水分特性などや、これらの性質と衣服の快適性や審美性、可縫製性などとの関連のほか、着用や洗濯などによる衣服・布地の変化など実用性能の面からも、関連する国内外の研究資料を講読し、その内容について討議し、被服設計について理解を深める。本科目は、被服やその材料を取り上げており、家庭科教員養成のための科目である。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 各回、予習復習合わせて1時間程度。日常生活の中で衣料品や寝具などの使い心地や、これらの材料について関心を持ち、情報入手に努めること。学部で学んだ繊維材料学やアパレル造形学などの内容を把握しておくこと。			
[ 授業計画 ] 1.最近の素材の特徴 2.布素材(織物、編物、皮革、不織布)の特徴 3.布素材(織物、編物、皮革、不織布)の特徴 4.布素材(織物、編物、皮革、不織布)の特徴 5.副資材(裏地、芯地、接着芯地、中綿材料、縫糸、ファスナー、ボタン類、テープなど)の種類と特性、苦情事例 6.副資材(裏地、芯地、接着芯地、中綿材料、縫糸、ファスナー、ボタン類、テープなど)の種類と特性、苦情事例 7.副資材(裏地、芯地、接着芯地、中綿材料、縫糸、ファスナー、ボタン類、テープなど)の種類と特性、苦情事例 8.縫製(各種素材の縫製、縫製のトラブル、製品の評価等) 9.縫製(各種素材の縫製、縫製のトラブル、製品の評価等) 10.縫製(各種素材の縫製、縫製のトラブル、製品の評価等) 11.水系洗濯対応スーツの開発 12.布地の寸法変化挙動、セット性 13.ストレッチ素材の着心地と素材特性			
[ 成績評価方法 ] レポート(70%)、授業に対する姿勢(30%)			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ] プリント配布			
[ 参考書(ISBN) ] なし			

科目名	被服造形学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中西 正恵		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 被服材料の特性、人体と被服との関係、被服の構造、パターン設計、縫製、消費性能などの研究資料の購読や実物を見ることを通して、材料設計やアパレル製品設計についての理解や視野を広げる。			
[ 授業概要 ] 繊維および繊維集合体の力学・表面特性、熱・水分特性などや、これらの性質と衣服や寝具などの快適性や審美性などとの関連のほか、着用や洗濯などによる衣服・布地の変化など実用性能の面からも、関連する国内外の研究資料を講読し、その内容について討議し、被服造形について理解する。なお、本科目は、被服やその材料を取り上げており、家庭科教員養成のための科目である。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 各回、予習復習合わせて1時間程度。日常生活の中で衣料品や寝具などの使い心地や、これらの材料について関心をもち情報入手につとめること。学部で学んだ繊維材料学やアパレル造形学などの復習をしておくこと。			
[ 授業計画 ] 1.最近の素材の特徴 2.温熱快適性を追求した素材開発例と素材の性能評価方法 3.温熱快適性を追求した素材開発例と素材の性能評価方法 4.婦人服のシルエットと布地の力学特性 5.婦人服のシルエットと布地の力学特性 6.寝具材料の種類と特徴、各種性能の評価方法 7.寝具材料の種類と特徴、各種性能の評価方法 8.繊維製品の苦情の現状 9.外観変化について(しわ、ピリング、スナッグ、中わたの吹き抜けなど) 10.外観変化について(しわ、ピリング、スナッグ、中わたの吹き抜けなど) 11.着用や洗濯による各種布の風合い変化 12.衣服の損傷について(摩耗 擦り切れ、縫い目滑脱、パイル抜けなど) 13.衣服の損傷について(摩耗 擦り切れ、縫い目滑脱、パイル抜けなど)			
[ 成績評価方法 ] レポート(70%)、授業に対する姿勢(30%)			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書 (ISBN) ] プリント配布			
[ 参考書 (ISBN) ] なし			

科目名	被服造形学特別研究a	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	中西 正恵		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 被服造形に関連した課題を発見し、それを解決するために、文献等情報収集や研究計画の立案、実験や制作の進行、解析、考察し、最終的に研究成果を論文としてまとめ、発表できる力を身につける。</p> <p>[ 授業概要 ] 被服造形に関連したテーマを設定し、関連の文献収集や調査・見学等に行き、研究計画を立てて、実験や制作を進行させ、論文として完成させていく。本科目は、被服やその材料を研究テーマに取り上げており、家庭科教員養成のための科目である。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 実験等の計画や、結果は随時報告すること。</p> <p>[ 授業計画 ] 研究テーマに合わせて、研究計画をたて進行、論文作成、発表等を行う。 1.関連する研究論文、最近の研究情報の収集 2.関連する研究論文、最近の研究情報の収集 3.関連する研究論文、最近の研究情報の収集 4.調査・見学等 5.関連する研究論文、最近の研究情報の収集 6.関連する研究論文、最近の研究情報の収集 7.予備実験、方法などの検討 8.予備実験、方法などの検討 9.予備実験、方法などの検討 10.予備実験、方法などの検討 11.予備実験、方法などの検討 12.研究計画立案 13.研究計画立案 14.本実験、データ処理、制作、考察等 15.本実験、データ処理、制作、考察等 16.本実験、データ処理、制作、考察等 17.本実験、データ処理、制作、考察等 18.本実験、データ処理、制作、考察等 19.本実験、データ処理、制作、考察等 20.本実験、データ処理、制作、考察等 21.本実験、データ処理、制作、考察等 23.本実験、データ処理、制作、考察等 24.論文作成 25.論文作成 26.論文作成、発表</p> <p>[ 成績評価方法 ] 研究に対する態度、研究成果、論文などを総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	被服造形学特別研究b	前期～後期	7 単位
サブタイトル			
担当者	中西 正恵		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 被服造形に関連した課題を発見し、それを解決するために、文献等情報収集や研究計画の立案、実験や制作の進行、解析、考察し、最終的に研究成果を論文としてまとめ、発表できる力を身につける。</p> <p>[ 授業概要 ] 被服造形に関連したテーマを設定し、関連の文献収集や調査・見学等に行き、研究計画を立てて、実験や制作を進行させ、論文として完成させていく。本科目は、被服やその材料を研究テーマに取り上げており、家庭科教員養成のための科目である。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 実験や調査等の計画や、結果は随時報告すること。</p> <p>[ 授業計画 ] 研究テーマに合わせて、研究計画をたて進行、論文作成、発表等を行う。 1.関連する研究論文、最近の研究情報の収集 2.関連する研究論文、最近の研究情報の収集 3.関連する研究論文、最近の研究情報の収集 4.調査・見学等 5.予備実験・調査、方法などの検討 6.予備実験・調査、方法などの検討 7.予備実験・調査、方法などの検討 8.予備実験・調査、方法などの検討 9.本実験・調査、データ処理、制作、考察等 10.本実験・調査、データ処理、制作、考察等 11.本実験・調査、データ処理、制作、考察等 12.本実験・調査、データ処理、制作、考察等 13.本実験・調査、データ処理、制作、考察等 14.本実験・調査、データ処理、制作、考察等 15.本実験・調査、データ処理、制作、考察等 16.本実験・調査、データ処理、制作、考察等 17.本実験・調査、データ処理、制作、考察等 18.本実験・調査、データ処理、制作、考察等 19.本実験・調査、データ処理、制作、考察等 20.本実験・調査、データ処理、制作、考察等 21.本実験・調査、データ処理、制作、考察等 23.本実験・調査、データ処理、制作、考察等 24.論文作成 25.論文作成 26.論文作成、発表</p> <p>[ 成績評価方法 ] 研究に対する態度、研究成果、論文などを総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] プリント配布</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	被服造形学特論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中西 正恵		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 被服材料の特性、人体と被服との関係、被服の構造、パターン設計、縫製工程、消費性能など、被服造形に関連する事項を理解できる。			
[ 授業概要 ] 布をはじめとする被服材料の力学・表面特性、熱特性、水分特性などは、布の構造、布を構成する糸の性質、さらに繊維の性質や各種加工法などの影響を受ける。この繊維、糸、布に至るプロセスの中で、各段階における性質がどのように発現され、最終的に被服造形の材料として用途やデザインにふさわしい性質を付与できるのかを講述する。さらに、布や寝具の充填物などの材料の性質と、最終製品となって使用されたときの着心地や寝心地、審美性、耐久性などとの関わりを、製造および消費段階で発生する問題事例も紹介しながら解説する。なお、本科目は、被服やその材料を取り上げており、家庭科教員養成のための科目である。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 各回、予習復習合わせて4時間程度。日常生活の中で衣料品や寝具などの使い心地や、これらの材料について関心をもち情報入手につとめること。学部で学んだ繊維材料学やアパレル造形学などの復習をしておくこと。			
[ 授業計画 ] 1.糸・布の繊維集合構造、糸・布の名称や特徴 2.布の力学・表面特性と風合い① 3.布の力学・表面特性と風合い② 4.衣服圧 5.衣服の外観 6.衣服の構造、副資材 7.縫製の諸問題① 8.縫製の諸問題② 9.縫製の諸問題③ 10.衣服の実用性能(ピリング、摩耗 他)、苦情事例① 11.衣服の実用性能(ピリング、摩耗 他)、苦情事例② 12.布、充填材料の熱・水分・空気の移動特性 13.ふとんや枕の性能			
[ 成績評価方法 ] レポート(70%)、授業に対する姿勢(30%)			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書 (ISBN) ] プリント配布			
[ 参考書 (ISBN) ] なし			

家政学科研究科  
博士後期課程

科目名	栄養化学特論・演習	前期	2 単位
サブタイトル	栄養学の研究とその研究方法を学ぶ		
担当者	狩野 百合子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]          栄養化学の実験・研究の進め方を理解し、自分で実験・研究を計画し実験できるようになることを目指す。</p> <p>[ 授業概要 ]          栄養化学の実験・研究の進め方について紹介する。特に、栄養学の研究方法及び実験方法について、具体例を挙げながら解説する。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]          前回の授業を復習し、理解を深めて、次の授業の準備をすること。予習・復習を含め4時間以上の学習をすること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養学の研究方法</li> <li>2. 動物体の構成と機能(細胞・機関・ホルモンの役割)</li> <li>3. 消化吸収</li> <li>4. 炭水化物(炭水化物の化学、消化・吸収、代謝)</li> <li>5. 脂質(脂質の化学、消化・吸収、代謝)</li> <li>6. タンパク質(タンパク質の化学、消化・吸収、代謝)</li> <li>7. ビタミン・ミネラル(タンパク質の化学、消化・吸収、代謝)</li> <li>8. 動物を用いる栄養実験の方法</li> <li>9. 栄養シグナル</li> <li>10. 食品の機能性</li> <li>11. 食品中非栄養素の重要性</li> <li>12. 香辛料成分</li> <li>13. まとめ(討論)</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]          レポート(50%)、授業態度(50%)          レポートは評価を付して返却する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          なし          プリントを配布・使用する。</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          プリント配付</p>			

科目名	食品化学特論・演習	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	安藤 清一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 食品科学分野の最新の研究成果を整理し、理解を深めることを目指す。</p> <p>[ 授業概要 ] 食品科学分野の先進的な研究論文を特論・演習で紹介し、討論を深める。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 博士前期課程の研究成果を踏まえ、新たな研究課題を整理する。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要の説明</li> <li>2. 先進的な食品科学分野の文献検索①</li> <li>3. 先進的な食品科学分野の文献検索②</li> <li>4. 先進的な食品科学分野の文献検索③</li> <li>5. 先進的な食品科学分野の文献検索④</li> <li>6. 先進的な食品科学分野の文献検索⑤</li> <li>7. 食品科学分野の先進的学術論文の発表と討論①</li> <li>8. 食品科学分野の先進的学術論文の発表と討論②</li> <li>9. 食品科学分野の先進的学術論文の発表と討論③</li> <li>10. 食品科学分野の先進的学術論文の発表と討論④</li> <li>11. 食品科学分野の先進的学術論文の発表と討論⑤</li> <li>12. 食品科学分野の先進的学術論文の発表と討論⑥</li> <li>13. まとめ</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 特論・演習に取り組む姿勢、発表内容、討論への参加状況などを総合して評価する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			

科目名	食品分析学特論・演習	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	木村 万里子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ] 食品成分の構造・機能解析に関わる基本的・応力的な研究手法を修得する。</p> <p>[ 授業概要 ] 主に豆類に含まれる機能性成分(ペプチド、オリゴ糖、レクチン等)の構造特性と生体機能調節に関連するテーマで演習を行う。得られた研究結果については、統計処理し、レポートにまとめる。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 基本的な化学、生物学、生化学、食品学等の知識を習得していること。各回、予習復習合わせて2時間です。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究に関する調査、解明すべき問題の抽出</li> <li>2. 抄読会、関連文献紹介</li> <li>3. 解析手法に関する検討</li> <li>4. 研究計画作成</li> <li>5. 予備実験</li> <li>6. 本実験①</li> <li>7. 本実験②</li> <li>8. 本実験③</li> <li>9. 本実験④</li> <li>10. 本実験⑤</li> <li>11. 実験のまとめ、統計処理①</li> <li>12. 実験のまとめ、統計処理②</li> <li>13. レポート作成</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 研究論文(70%)、研究発表(30%)</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし(プリント配布) 適宜指示する</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 適宜指示する。</p>			

科目名	生化学特論・演習	前期	2 単位
サブタイトル	免疫のしくみと細胞情報シグナル伝達		
担当者	田村 奈緒子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[ 到達目標 ]  免疫応答についての分子レベルでの講義を通し、自然免疫と獲得免疫からなるシステムとしての免疫系と病原性微生物の排除機構の暴走としてのアレルギー反応を理解する。  免疫細胞内のシグナル伝達を学び、脱顆粒を抑制する物質の作用機序を明らかにする。</p> <p>[ 授業概要 ]  免疫応答およびアレルギーを引き起す細胞内シグナル伝達のメカニズムについて講義する。研究報告とともに、マスト細胞脱顆粒抑制物質について、その作用点を探る。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]  生体防御反応としての免疫機能と、その異常によっておこる疾患について今まで学んだことをまとめ理解しておく。メディアで知ったり、身近な人の話で関連のあること、興味のあることをまとめておく。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マスト細胞と脱顆粒について</li> <li>2. チロシンリン酸化酵素によるシグナル伝達について</li> <li>3. 実験報告と考察1</li> <li>4. 現在までわかっている脱顆粒抑制物質について</li> <li>5. 実験報告と考察2</li> <li>6. 生薬学、天然物化学からのアプローチ</li> <li>7. 実験報告と考察3</li> <li>8. 実験報告と考察4</li> <li>9. 実験報告と考察5</li> <li>10. 実験報告と考察6</li> <li>11. 実験報告と考察7</li> <li>12. 実験報告と考察8</li> <li>13. 実験報告と考察9</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ]  レポート</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  プリントを使用する 著者名:田村奈緒子</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  分子細胞免疫学 原著第5版 著者名:著 Abbas,Abul K., Lichtman,Andrew H.  監訳 松島綱治, 山田幸宏 出版社:エルゼビア・ジャパン (978-4860348717)</p>			

科目名	調理科学特論・演習	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	後藤 昌弘		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 調理過程で起こる食品成分、組織構造の変化とそれらに伴う食味やテクスチャーの変化、さらに、喫食者の嗜好性やその評価方法などについて理解し、説明できるようになる。			
[ 授業概要 ] 嗜好性に影響をおよぼす加熱調理を中心に、食品の変化とヒトの嗜好性の関連について学修する。また、調理操作や調理機器の特性を含めた効果的な利用方法およびその応用研究について講義や論文から学ぶ。また、研究の動向や方法などは課題発表とディスカッションなども取り入れながら、より具体的に学ぶ。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 授業時に紹介する論文およびそれに関連する論文や書籍を熟読する。各回、予習復習あわせて4時間程度は学習することが望ましい。			
[ 授業計画 ] 1. 調理過程での食品の変化とヒトの受容性(基礎知識と関連研究) 2. 調理条件、食味、嗜好、テクスチャー、官能評価 3. 加熱法による伝熱特性と食品物性、味 4. 湿式・乾式加熱、誘電加熱、真空調理、超高圧調理など 5. 呈味成分、食品物性、食品組織、マイクロ波 6. 低温貯蔵、冷凍と解凍 7. 真空調理とクックチル 8. おいしさに関する要因とその評価法について 9. 味覚、嗅覚、視覚、味の相互作用、識別評価、嗜好評価 10. 食物の食味評価の解析 11. パネル選抜法、評価特性の経時変化、評価 への影響因子 12. 課題発表とディスカッション1 13. 課題発表とディスカッション2			
[ 成績評価方法 ] レポートとディスカッションの取り組み姿勢を総合して評価する			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ] なし なし			
[ 参考書(ISBN) ] なし			

科目名	病態栄養学特論・演習	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	置村 康彦		
[実務経験のある教員による授業]			
[ 到達目標 ] 栄養やホルモンの作用を理解し、それらの生活習慣病の発症における関与やヒトの発育・老化に及ぼす影響に関する最近の研究成果について知る。			
[ 授業概要 ] 成長・老化と栄養やホルモンの関連に関する最近の研究成果について講義(一部抄読会)を行います。			
[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 基本的な生物学、生化学、生理学、臨床栄養学の知識を必要としますので、学部レベルの知識を習得しておくことが望ましい。各回、予習復習合わせて4時間程度の学修が必要です。			
[ 授業計画 ] 1.イントロダクション 2.成長、体組成維持に関わる栄養とホルモン 3.成長の正常と異常/成長ホルモン分泌機構、発現調節 4.摂食調節 5.味覚受容 6.糖尿病 7.脂質異常症 8.NAFLD/NASH 9.老化 10.サルコペニア/フレイル 11.筋萎縮の仕組み 12.アミノ酸飢餓と統合性ストレス応答 13.まとめ			
[ 成績評価方法 ] 授業における熱心さ、発表など積極的な関与の有無を評価対象とします。毎回、各学生の理解を確認し、不十分な時には個別にフィードバック指導を行います。			
[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[ 教科書(ISBN) ] なし なし			
[ 参考書(ISBN) ] なし			

科目名	臨床栄養学特論・演習	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	竹中 優		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[ 到達目標 ] 実際の症例を参考に臨床におけるPOSに基づいた考え方を習得し、他業種の医療関係者に適切に自らの考えを伝える。</p> <p>[ 授業概要 ] 現実的な症例に対し、問題点を抽出し解決法を考える。最新の医学・臨床栄養学の知見にもとづき議論する。主に英語論文・原著・教科書を用い、up-to date な情報収集法についても学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 解剖生理学・病理学・生化学等の基礎的な理解を確認する。臨床栄養学・臨床医学のup to dateな考え方を理解しておく。疾病者の病態・栄養状態を評価し、それぞれの疾患や病態に応じた治療法としての食事療法、栄養補給法を理解し考える。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 腎生理と病態</li> <li>2. 慢性腎臓病(CKD):病態と栄養管理</li> <li>3. 腎疾患:最新トピックス</li> <li>4. 腎疾患症例演習1</li> <li>5. 腎疾患症例演習2</li> <li>6. 腎疾患症例演習3</li> <li>7. 腎疾患症例演習4</li> <li>8. 腎疾患で用いられる薬物療法について</li> <li>9. 透析療法の基礎</li> <li>10. 透析療法の実際</li> <li>11. 透析療法症例演習1</li> <li>12. 透析療法症例演習2</li> <li>13. 総合演習と討議</li> </ol> <p>[ 成績評価方法 ] 講義中の課題(50%)、レポート(50%) 課題・レポートに対する討議を行う</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] なし なし</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] なし</p>			